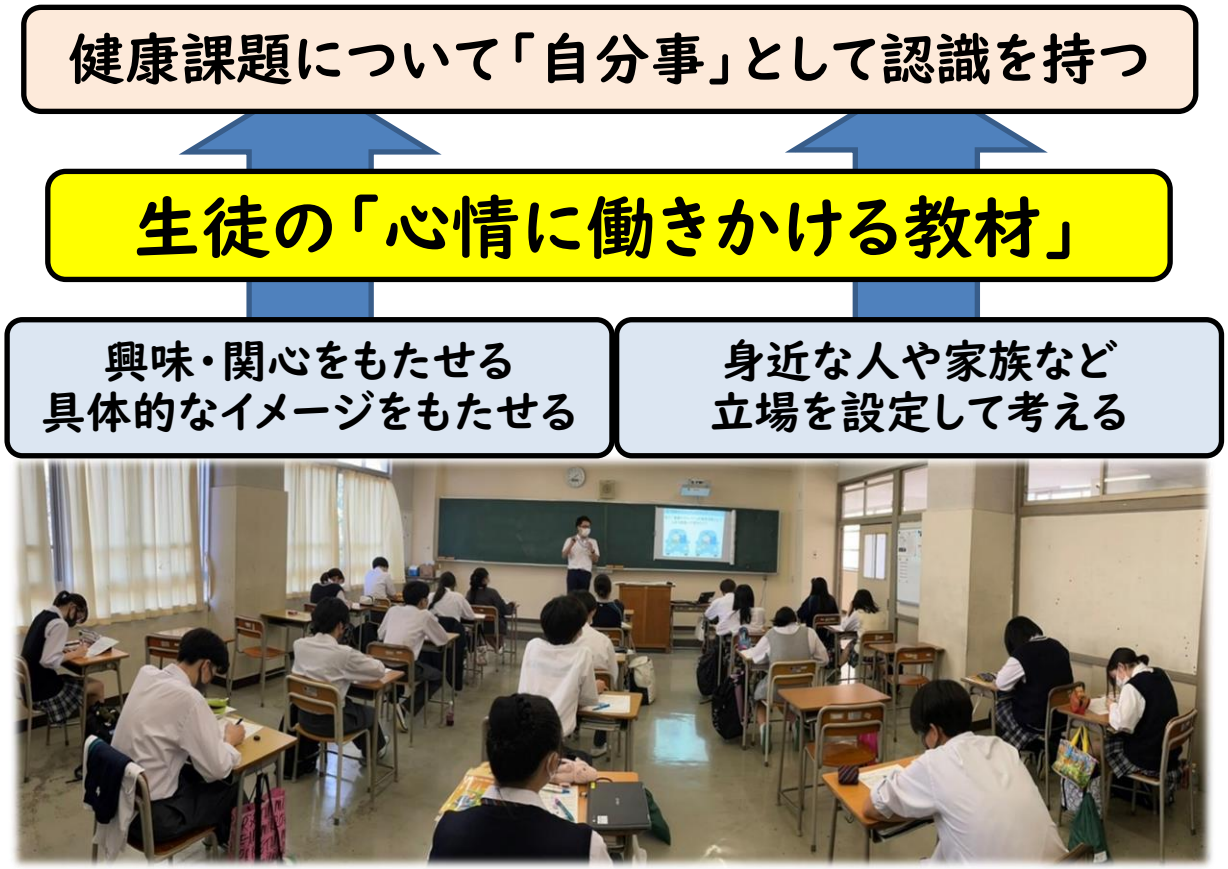
令和３年度

長期研修講座研究報告詳細版

加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つ保健学習

―「心情に働きかける教材」を取り入れた学習を通して―



神奈川県立総合教育センター

体育指導センター　長期研究員

神奈川県立釜利谷高等学校　外赤　広太

目　次

第１章　研究を進めるにあたって

１　研究主題・・１
２　はじめに・・１
３　研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
４　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
５　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
６　研究の構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

第２章　理論の研究

１　高等学校「科目保健」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
２　単元「加齢と健康」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
３　「自分事」としての認識を持つことについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
４　「心情に働きかける教材」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
５　保健の授業評価票について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

第３章　検証授業

１　検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
２　検証方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
３　単元の目標・評価規準・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
４　学習指導の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
５　授業の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
６　結果と考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

第４章　研究のまとめ

１　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
２　今後の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
３　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

［参考・引用文献］

第１章　研究を進めるにあたって

１　研究主題

加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つ保健学習
―「心情に働きかける教材」を取り入れた学習を通して―

２　はじめに

高等学校では、令和４年度から新しい『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）』（以下、『新学習指導要領』という）が、年次進行でスタートする。『新学習指導要領』の理念や内容の理解に加え、新たな健康課題についての授業改善や教材研究など、更なる創意工夫が求められている。

筆者のこれまでの保健の授業を振り返ると、日常生活と関連のある教科書以外の身近な情報を基に思考を促す発問を行ったりしてきた。しかし、生徒の学習に取り組む姿を振り返ると、生徒の現在及び将来の生活における実践力の育成を目指す科目にも関わらず、授業における課題を「自分事」として捉えられる授業になっていなかったと思われる。特に、既有知識が少なく、自分とのつながりをイメージしにくい内容に関しては顕著であり、本研究で扱う「加齢と健康」も、他の内容に比べ比較的関心が薄く、生徒が「自分事」としての認識を持てていないように感じていた。

「平成 27 年度高等学校学習指導要領実施状況調査（教師質問紙調査集計結果）」では、教師が「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した割合は、「思春期と健康」の 8.4％や「結婚生活と健康」の 7.0％に比べ、「加齢と健康」は 68.1％と極めて高い数値を示し、多くの教師もこの単元への課題意識があることが分かった（国立教育政策研究所　2015　pp.24-26）。このことから、「加齢と健康」の指導に当たっては、生徒にとって身近に感じられ、興味・関心が持てる学習の工夫が一層必要であると考えられる。

今村は、保健の授業づくりについて、「学習者たちの頭脳内にある経験・知識・認識等に働きかけ、彼らの想念を刺激しつつ新たな情報を提供し、知識を組み替えさせ新しい自己を形成させる方向で、授業を構想すべきだ」（今村　2017　p.41）と述べている。この「想念」とは、「考え思うこと。心に浮ぶ思い」（新潮社　1995）と記されており、生徒の「心」を刺激し、健康課題に関心を持たせ、新たな知識を経験や既有知識と関連させながら認識の変容を促すことができるような学習の工夫が必要であると考えられる。

また今村は「教材」について、「教材」をつくる時の材料を「素材」として捉えており、「素材」から「教材」に加工していく過程・プロセスを「教材化」と呼んでいる（今村　2017　p.62）。このことから、学習内容の理解を促すためには、教材となる適切な素材を選択し、素材に手を加え、教材にしていく過程が重要であると考えられる。

一方、生徒が学習内容を「自分事」として捉えられるようにすることは、これまでにも多くの教育実践者・研究者が問題意識を持ち、研究に取り組んできている。その中でも忠隈は、保健の授業「がんの予防」において、「生命の尊さ」を学ぶ道徳の授業を保健の授業に先立って行い、同年代のがん患者の実話や実際の写真・音声等を素材とした教材を活用し、生徒の心情に働きかけ、身近な人や家族の視点を授業に取り入れることで、がんを「自分事」として考えさせた（忠隈　2021）。

本研究においては、忠隈の研究を参考に、筆者とその家族の認知症に係る体験談や、高校生が犠牲になった高齢ドライバーによる交通事故のニュース（映像）といった興味・関心や具体的なイメージが持てる素材を基に手記を作成したり、身近な人や家族などといった立場を設定した心情を問う発問を作成したりするなどして、教材を作成することとした。そして作成した「心情に働きかける教材」を活用した学習を通して、加齢に伴う健康課題について「自分事」としての認識を持つことができるよう授業を実践することとした。

以上のことから、本主題を設定するとともに、本研究の成果と課題を明らかにすることは、生徒にとって関心が薄く、「自分事」としての認識を持ちにくい内容を扱う保健の授業づくりに貢献できると考えた。

３　研究の目的

加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つことができる「心情に働きかける教材」づくりを通して、仮説の検証結果等を基に教材づくりのポイントを検討する。

４　研究の仮説

高等学校第２学年の保健の単元「加齢と健康」において、「心情に働きかける教材」を取り入れた学習を通して、加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つことができるであろう。

５　研究の方法

（１）研究を進めるにあたって、理論的研究を行い、仮説を設定する。
（２）理論研究を基に指導と評価の計画を立て、授業を実践する。
（３）理論研究と仮説検証の結果を基に、研究のまとめを行う。
※本研究では、『新学習指導要領』の総則等の内容を踏まえ、『高等学校学習指導要領（平成 21 年告示）』（以下、『現行学習指導要領』という）に基づき授業を実施した。

６　研究の構想図

自他の健康課題を解決していくための
実践力を身に付けた生徒の育成
健康課題について「自分事」としての認識を持つ
生徒の「心」を刺激し、認識の変容を促す
発問の工夫
自分の生活と関連付けた発問
自分に置き換えて考える発問
身近な人や家族など
立場を設定して考える発問
素材
体験・ニュース映像
教材化
手記、発問
の作成等
心情に働きかける教材
認知症に係る
教材（手記）
高齢ドライバーによる
交通事故に係る教材
加齢に伴う健康課題を「自分事」として捉えさせるのが難しい
＜教師の課題＞
●生徒に「興味・関心」をもたせにくい
→身近に感じられ、興味・関心が持てる学習の工夫が必要
～クリエイティブスクール～
多くの可能性を秘めつつも一人ひとりが持つ力を必ずしも中学校時代に十分に発揮しきれなかった生徒が、これまで以上に学習への意欲を高め、基礎学力や社会性を身につける学校

第２章　理論の研究

１　高等学校「科目保健」について

（１）保健学習の課題について

ア　令和４年度から『新学習指導要領』が年次進行でスタートする。改訂にあたり、平成 28 年の中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（以下、「答申」という）では、現行学習指導要領の成果と課題として、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果が見られる一方、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に伝えることに課題があるなど、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要であると指摘している（中央教育審議会　2016　p. 186）。

これらを踏まえ、保健では、健康に関心をもち、自他の健康の保持増進や回復を目指して、知識の指導に偏ることなく、健康課題に関する課題解決的な学習過程や、主体的・協働的な学習過程を工夫するなど、充実を図ることが求められている（中央教育審議会　2016　p. 188）。

イ　「平成 27 年度高等学校学習指導要領実施状況調査」では、生徒の学習に対する意識や教師の指導の実際等について明らかにするために、生徒及び教師を対象とした質問紙調査（生徒質問紙調査、教師質問紙調査、学校質問紙調査）を実施している。「教師質問紙調査（保健）」において、教師が「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した内容毎の割合を内容のまとまり毎に図１、２、３に降順で示した（国立教育政策研究所　2015　pp. 6-32）。

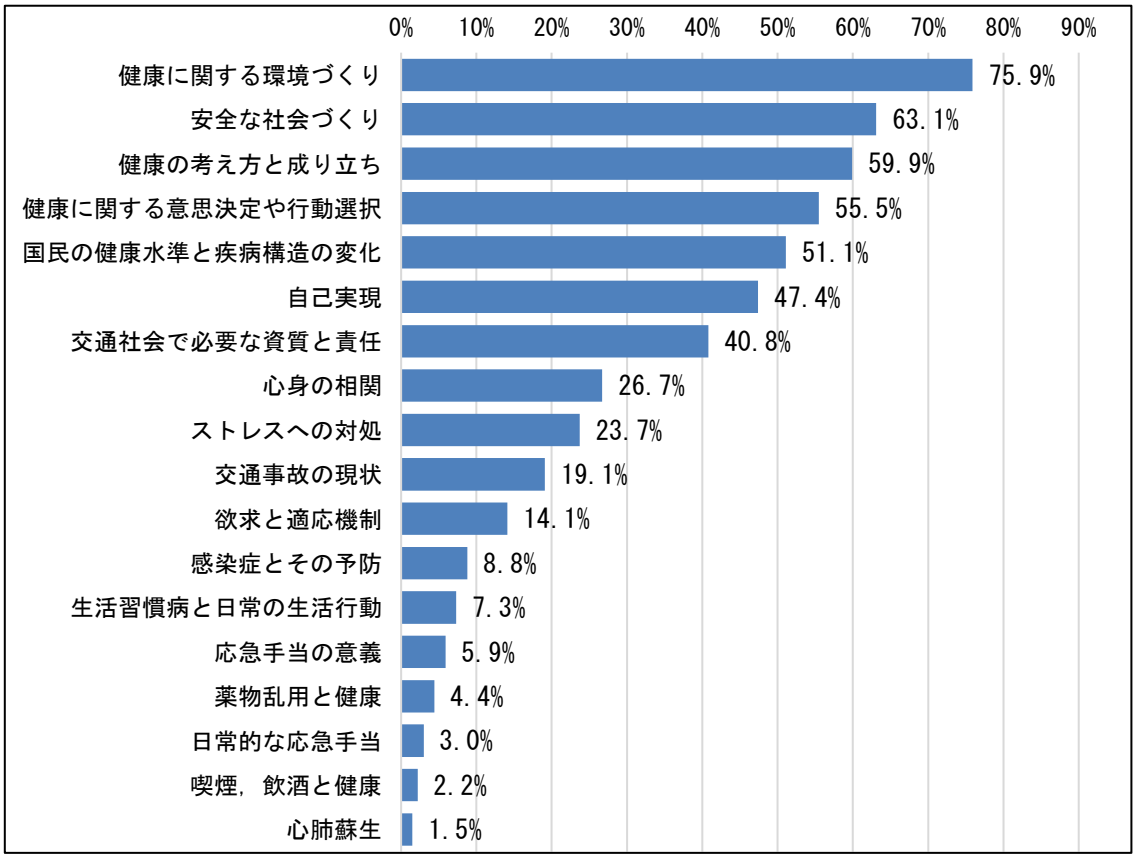


図１　教師が「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した内容毎の割合
（現代社会と健康）

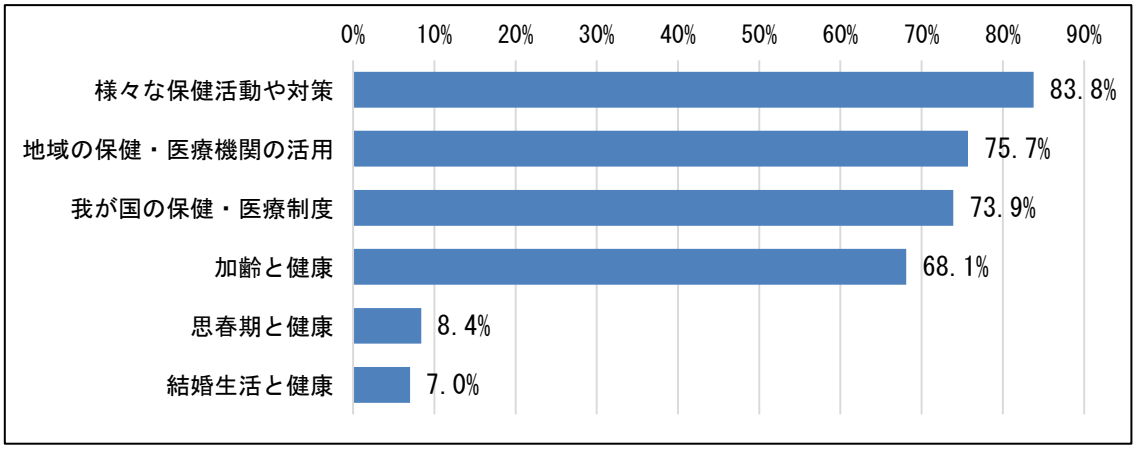


図２　教師が「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した内容毎の割合
（生涯を通じる健康）

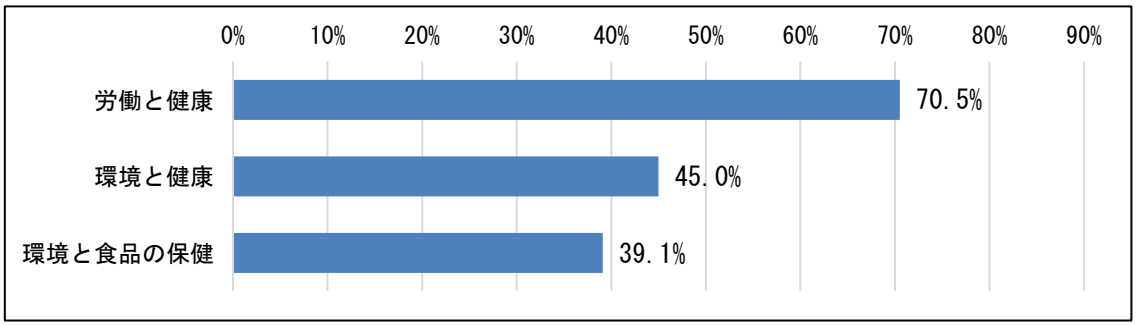


図３　教師が「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した内容毎の割合
（社会生活と健康）

図１、２、３をみると、教師が「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した割合は、内容毎に差がみられた。

全体をみると、「心肺蘇生」、「喫煙，飲酒と健康」や「日常的な応急手当」など、生徒にとって身近に感じられる単元や実習を伴う単元は低い数値であり、生徒は興味・関心をもちやすいことが分かる。一方で、「様々な保健活動や対策」や「地域の保健・医療機関の活用」など具体的な場面を想像（イメージ）しにくい単元では高い数値を示しており、身近な健康課題として捉えさせることが難しい単元については課題意識をもっていることが分かった。特に本研究で扱う「加齢と健康」は、同じ「生涯を通じる健康」の中の、「思春期と健康」の 8.4%や「結婚生活と健康」の 7.0%に比べ、「生徒が興味・関心をもちにくい」と回答した割合が 68.1%と高く、多くの教師もこの単元への課題意識があることが分かった（国立教育政策研究所　2015）。

このことから、「加齢と健康」の指導に当たっては、生徒にとって身近に感じられ、興味・関心が持てるよう、学習指導の工夫が一層必要であると考えられる。

２　単元「加齢と健康」について

表１は、『現行学習指導要領』と『新学習指導要領』、『高等学校学習指導要領（平成 21 年告示）解説　保健体育編　体育編』（以下、『現行解説保健体育編』という。）と『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編　体育編』（以下 、『新解説保健体育編』という）の「加齢と健康」に係る記載内容を比較したものである。

表１　「加齢と健康」に係る記載内容

	現行	新
学習指導要領	(2) 生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。 ア　生涯の各段階における健康 生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていること。	(3) 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。 (ｱ) 生涯の各段階における健康 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。
学習指導要領解説	(ｳ)加齢と健康 加齢に伴う心身の変化について，形態面及び機能面から理解できるようにする。中高年期を健やかに過ごすためには，若い時から，適正な体重や血圧などに関心をもち，適切な健康習慣を保つこと，定期的に健康診断を受けることなど自己管理をすることが重要であることを理解できるようにする。また，生きがいをもつこと，家族や親しい友人との良好な関係を保つこと，地域との交流をもつことなどが重要であることを理解できるようにする。 さらに，中高年の健康状態，生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていることを取り上げるとともに，高齢社会の到来に対応して，保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解できるようにする。 なお，機能障害及び社会復帰を図るためのリハビリテーションについても触れるようにする。	㋒　加齢と健康 中高年期を健やかに過ごすためには，若いときから，健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと，生きがいをもつこと，運動やスポーツに取り組むこと，家族や友人などとの良好な関係を保つこと，地域における交流をもつことなどが関係することを理解できるようにする。また，高齢期には，加齢に伴い，心身の機能や形態が変化すること，その変化には個人差があること，疾病や事故のリスクが高まること，健康の回復が長期化する傾向にあることについて理解できるようにする。 さらに，高齢社会では，認知症を含む疾病等への対処，事故の防止，生活の質の保持，介護などの必要性が高まることなどから，保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解できるようにする。その際，心身の機能障害及びリハビリテーションについても触れるようにする。

※下線は筆者加筆。

『新学習指導要領』から生涯を通じる健康の学習内容においてこれまで記されていた内容に加えて、表１の下線部の「自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動」と生涯を通じる健康の保持増進に加えて「回復」という言葉が新たに追加された。

『新解説保健体育編』の内容（文部科学省　2019　p. 208）についても、『現行解説保健体育編』の内容（文部科学省　2009）から、表１の下線部の内容が新たに追加された。

また、新たに「思考力，判断力，表現力等」について、「加齢と健康について，習得した

知識を基に，中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価すること」と具体的な例示も示された（文部科学省　2019　p.209）。

以上の事項を踏まえ、本研究では授業の中に自他の健康課題や高齢社会の課題を発見し、その解決を目指す活動や、認知症を含む疾病等への対処や疾病や事故のリスクの高まりについて考える活動を取り入れることとした。

2018 年（平成 30 年）に学習指導要領が改訂されたが、本校の評価の観点、評価規準については『現行学習指導要領』の学習内容で行うことから、本研究では『現行学習指導要領』、『現行解説保健体育編』の学習内容で授業を展開することを基本とした。

なお、高等学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置により「全部又は一部について新学習指導要領によることができる」となっていることから、取り扱う内容については柔軟に対応することとした。2022 年度（令和４年度）より、『新学習指導要領』に移行することも踏まえ、本研究では『新学習指導要領』の内容も一部組み込んでいる（文部科学省　2018）。

３　「自分事」としての認識を持つことについて

（１）本校の実態について

本校は 2009 年にクリエイティブスクールの指定を受け、今年で 14 年目になる。クリエイティブスクールとは、「多くの可能性を秘めつつも一人ひとりが持つ力を必ずしも中学校時代に十分に発揮しきれなかった生徒が、これまで以上に学習への意欲を高め、基礎学力や社会性を身につけるとともに、有意義な高校生活を送る意欲を高める」ことを目指すために設置された学校である（神奈川県教育委員会　2011）。

本校に入学してくる多くの生徒は、もう一度勉強をやり直したい、基礎・基本から学力を身に付けたいと思っており、本校の教職員は様々な工夫をしながら日々教育活動を行っている。

筆者のこれまでの保健の授業を振り返ると、日常生活と関連のある教科書以外の身近な情報を基に思考を促す発問を行ったりしてきた。しかし、生徒の学習に取り組む姿を振り返ると、生徒の現在及び将来の生活における実践力の育成を目指す科目にも関わらず、授業における課題を「自分事」として捉えられる授業になっていなかったと思われる。また、生徒が自分の考えや意見を基に主体的に課題を解決したり、学校での学びと自分の生活とのつながりを感じたりするような学習は十分とはいえず、特に、既有知識が少なく、自分とのつながりをイメージしにくい内容に関しては顕著であり、本研究で扱う「加齢と健康」も、他の内容に比べ比較的関心が薄く、生徒が「自分事」としての認識を持てていないように感じていた。

（２）本研究における「『自分事』としての認識を持つ」ことについて

論文検索サイト CiNii で、「授業」及び「自分事」で検索すると、52 件の論文がヒットする（2022 年２月７日現在）。各論文を概観してみると、環境問題（ごみ問題など）、政治問題、健康問題、防災（自然災害）など、生徒が「自分事」として捉えにくいと考えられる問題が取り上げられており、授業における課題を「自分事」として捉えられるようにすることは、これまでにも多くの教育実践者・研究者が問題意識を持ち、研究に取り組んできている。

左川、新谷の「健康課題を自分事として捉える生活習慣病予防教育」によると、「生活そのものを題材にする」、「保護者と共に学ぶ」、「継続的な自己評価」を取り入れ、継続した働きかけを行った結果、健康課題を自分事として捉え、健康な生活を自ら選択して実践する力が育ったと述べている（左川他　2020）。

また福田の「自分事として社会的問題解決を実践する社会科の授業」 について、今まで考えたことがなかった事実と自分の生活を関連づけて考え、「自分にできることは何か」と

いう意識が生まれることによって、社会的問題を自分事と捉えられたと述べている（福田 2020）。

さらには昨年度、保健と道徳を関連させ、「がんを自分事として捉え、認識を深める」ことを目指した忠隈の先行研究によると、「自分ががん患者の家族だったら、どのような行動をとるか」を考えさせたりするなど、身近な人や家族の視点を授業に取り入れたことが、がんを自分事として考え、認識を深める上で有効であったと述べている（忠隈　2021）。

そこで本研究では忠隈の先行研究を参考にし、保健の授業の中で、生徒が加齢に伴う健康課題を「自分事」として考えるために、「自分が高齢者になったら」という視点だけでなく、「自分が健康課題のある高齢者の家族だったら」という視点でも考えさせることで、自他の健康課題について、「自分事」として認識できるようになると考えた。

そこで、本研究における「自分事としての認識を持つ」とは、自分に加え、身近な人や家族など大切な人の立場に立って、加齢に伴う健康課題の本質や意義を理解することとした。

４　「心情に働きかける教材」について

（１）心情に働きかけることの意義について

今村は認識の変容を目指す保健の授業づくりについて、「学習者たちの頭脳内にある経験・知識・認識等に働きかけ、彼らの想念を刺激しつつ新たな情報を提供し、知識を組み替えさせ、新しい自己を形成させる方向で、授業を構想すべきだ」（今村　2017　p.41）と述べている。この「想念」とは、「考え思うこと。心に浮かぶ思い」（新潮社　1995）と記されており、また今村は「認識の変容」を、「新たな情報が加わることで知識の組み替えが行われ、より認識が深まること」と定義している。このことから、認識の変容を目指す保健の授業づくりにおいて、生徒の「心」を刺激し、健康課題に関心を持たせ、新たな知識を経験や既有知識と関連させながら認識の変容を促すことができるような学習の工夫が必要であると考えられる。

（２）「教材」について

今村は「教材」について、「学習者に身に付けて欲しい何らかの知識（概念・原理・法則など）や技能を、学習者に習得させるために提供する具体的な道具・手立て・仕掛けが『教材』である」と述べている。また、その「教材」をつくる時の材料を「素材」として捉えており、「素材」から「教材」に加工していく過程・プロセスを「教材化」と呼んでいる（今村 2017　p.62）。その関係性を図４に示した。

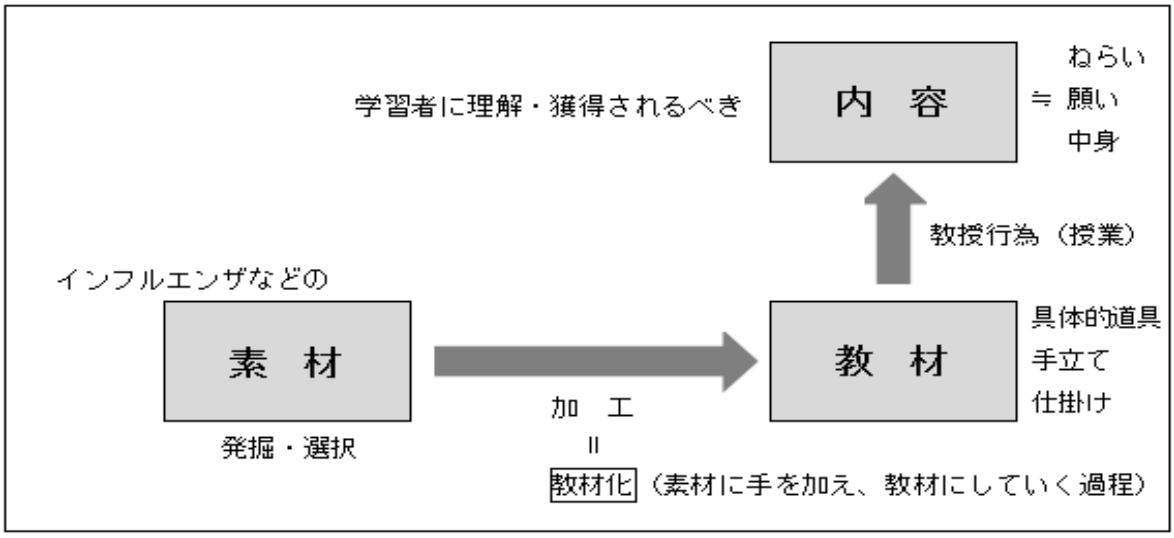


図４　授業における内容・教材・素材の関係性　　（今村　2017　p.62）

このことから、本研究では学習内容の理解を促すためには、教材となる適切な素材を活用し、素材に手を加え、教材にしていく過程が重要であると考え、本研究では学習指導の工夫として「教材」に着目することとした。

そこで、生徒の心情に働きかけ、認識の変容を促すために、授業者である筆者とその家族の認知症に係る体験談や、高校生が犠牲になった高齢ドライバーによる交通事故のニュース（映像）といった素材を基に手記を作成したり、身近な人や家族の立場で考えることができる発問を作成したりするなど、「心情に働きかける教材」を授業で取り入れることとした。

５　保健の授業評価票について

白石らは、生徒側からの保健授業そのものの評価、生徒が保健授業に対してどのような印象を持っているかについて検討し、保健授業の印象についてアンケート調査を行い、その結果を基に保健授業の評価票を作成した（白石他　1998　p.20）。

白石らは、生徒の保健授業に対する印象は、「生徒の学習過程に関するもの」、「教師の教授過程に関するもの」、「生徒の能動的な思考に関するもの」、「生徒の受動的な思考に関するもの」にまとめることができ、これらのうち「能動的思考」に該当する項目については生徒の学習活動を反映するもので、授業を終えて生徒がこれらの印象を多く持つことができる授業が良い授業であり、これらの項目が生徒による授業評価に利用できると述べ、その結果を考慮しつつ、「保健の授業評価票」（表２）を作成した（白石他　1998　p.17）。

本研究では、白石らの「保健の授業評価票」（表２）を基に、生徒が毎時間の授業をどのように捉えたかを把握するために、内容を一部修正して、「生徒による授業評価の項目」（表３）を作成し、活用することとした。

表２　保健の授業評価票

【質問項目】
（１）授業は興味深かったですか。
１、大変興味深かった　２、興味深かった　３、普通　４、興味深くなかった ５、全く興味深くなかった
（２）授業の中で新しい発見はありましたか。
１、かなりあった　２、あった　３、普通　４、なかった ５、全くなかった
（３）授業の中で多角的な考え方ができましたか。
１、かなりできた　２、できた　３、普通　４、できなかった ５、全くできなかった
（４）生活で役立つような内容がありましたか。
１、かなりあった　２、あった　３、普通　４、なかった ５、全くなかった

（白石他　1998　p.20）

表３　生徒による授業評価の項目

【質問項目】
（１）保健の授業は、興味深かったですか。
４　大変興味深かった　　３　興味深かった　　２　興味深くなかった １　全く興味深くなかった
（２）保健の授業の中で、新しい発見がありましたか。
４　かなりあった　　３　あった　　２　なかった　　１　全くなかった
（３）保健の授業の中で、いろいろな見方で考えることができましたか。
４　かなりできた　　３　できた　　２　できなかった　　１　全くできなかった
（４）保健の授業の中で、生活に役立つような内容がありましたか。
４　かなりあった　　３　あった　　２　なかった　　１　全くなかった

具体的な修正点は、中立的尺度「３、普通」に回答が集中しないよう「３、普通」を除き４件法としたことと、表３の下線部を加筆・修正した点である。

３章　検証授業

１　検証授業

（１）期間

令和３年９月 27 日（月）～10 月 13 日（水）

※短縮授業について

・９月 27 日（月）、９月 29 日（水）40 分授業（半数登校）
　→緊急事態宣言中のため、オンライン併用で授業を実施。
・10 月４日（月）、10 月６日（水）40 分授業（全員登校）
・10 月 11 日（月）、10 月 13 日（水）45 分授業（全員登校）

（２）場所　　神奈川県立釜利谷高等学校　教室

（３）授業者　　神奈川県立釜利谷高等学校　教諭　外赤　広太（筆者）

（４）対象者　　第２学年　３クラス　計 73 名

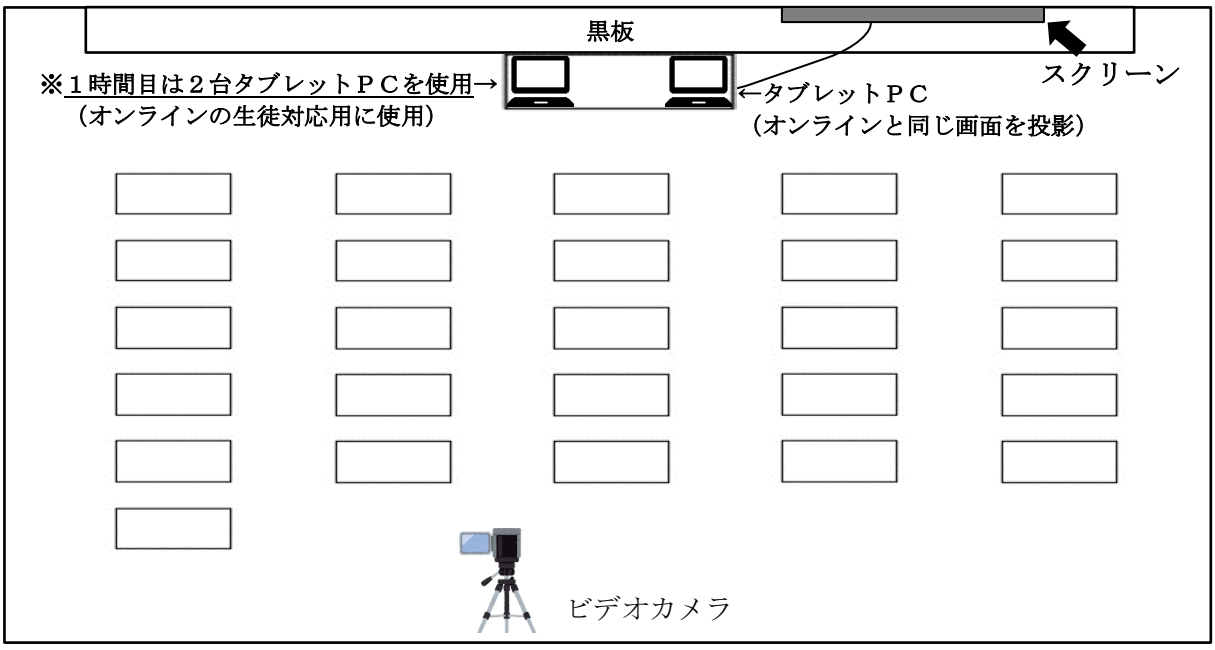
（５）単元名

保健　（２）生涯を通じる健康
　　ア　生涯の各段階における健康　（ウ）加齢と健康

２　検証方法

（１）主なデータの収集方法

ア　アンケート調査
（ア）実態把握アンケート　６月 24 日（木）
（イ）事前アンケート　　９月 24 日（金）
（ウ）事後アンケート　　10 月 28 日（木）
イ　ワークシート
ウ　毎時間の授業振り返りアンケート（オンライン上のアンケート機能を活用）
エ　授業の様子を記録した映像（オンライン授業は、画面録画を実施）



（２）仮説と検証の視点と方法

【研究の仮説】

高等学校第２学年の保健の単元「加齢と健康」において、「心情に働きかける教材」を取り入れた学習を通して、加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つことができるであろう。

【検証の視点、具体的な視点】

ア　生徒は保健の授業をどのように捉えたか

具体的な視点	手がかり	内容及び方法等
生徒は保健の授業をどのように捉えたか	ワークシート （毎時間） 「生徒による授業評価の項目」 （p. 10 表３参照）	質問：「保健の授業は、興味深かったですか。」（４件法） 質問：「保健の授業の中で、新しい発見がありましたか。」（４件法） 質問：「保健の授業の中で、いろいろな見方で考えることができましたか。」（４件法） 質問：「保健の授業の中で、生活で役立つような内容がありましたか。」（４件法）
	ワークシート （毎時間） 事後アンケート	質問：「この授業の感想を自由に書いてください。」（自由記述） 質問：「今回の３時間の授業の感想を自由に書いてください。」（自由記述）

イ　心情に働きかける教材であったか

具体的な視点	手がかり	内容及び方法等
具体的にイメージすることができたか	ワークシート （毎時間）	質問：「今日の授業の教材である『〇〇』で、その場面や内容をイメージすることができましか。」（４件法）
印象に残ったか	ワークシート （毎時間）	質問：「今日の授業の教材である『〇〇』は、印象に残りましたか。」（４件法） ※「〇〇」は、教材の名称を表す（下部に記載）
自分のことや身近な人たちのことを考える上で役に立ったか	事後アンケート	質問：「授業で使用した教材（手記や映像）は、自分のことや身近な人たち（家族や大切な人など）のことについて考える上で役に立ちましたか。」（４件法） ※「自分のこと」、「身近な人たち（家族や大切な人など）」それぞれ回答する。
教材をどのように捉えたか	ワークシート （毎時間）	質問：「１時間目の教材である『〇〇』について、感想を書いてください。」（自由記述） 質問：「２時間目の教材である『〇〇』について、感想を書いてください。」（自由記述） 質問：「３時間目の教材である『〇〇』について、感想を書いてください。」（自由記述） ※上記の質問は、１時間毎に分けて検証する。

	ワークシート （毎時間） 事後アンケート	質問：「この授業の感想を自由に書いてください。」 （自由記述） 質問:「今回の３時間の授業の感想を自由に書いてください。」（自由記述）
※「〇〇」の教材の詳細について ・１時間目：「祖母の変化を家族ごととして考える（前編）」 ・２時間目：「高齢者運転事故を起こさないために・・・娘奪われた遺族の訴え」 ・３時間目：「祖母の変化を家族ごととして考える（後編）」		

ウ　加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つことができたか

具体的な視点	手がかり	内容及び方法等
ア　加齢に伴う健康課題を自分事として考えることができたか	事前アンケート	質問：「『加齢』に伴う健康課題を自分事として考えたことがありますか。」（２件法）
	事後アンケート	質問：「『加齢』に伴う健康課題を自分事として考えることができた。」（２件法）
	事前アンケート 事後アンケート	質問：「『加齢』に伴う健康課題は、自分の実生活にも関係がある内容なので学ぶ必要があると思いますか。」（４件法） 質問：「自分の心がけや努力によって、加齢に伴う心身の老化を遅らせることができると思いますか。」（４件法）
	ワークシート （毎時間）	質問：「今回行った授業の内容について、日常生活にいかそうと思いましたか。」（４件法） 「『そう思う』『どちらかというとそう思う』と回答した人に伺います。いかそうと思う内容を具体的に書いてください。」（自由記述）
	ワークシート （毎時間） 事後アンケート	質問：「この授業の感想を自由に書いてください。」 （自由記述） 質問:「今回の３時間の授業の感想を自由に書いてください。」（自由記述）
イ　加齢に伴う健康課題について、認識を持つことができたか	事前アンケート 及び ３時間目ワークシートの記述	質問：「自分や身近な人たち（家族や大切な人など）が長く健康に生きていくために、具体的にどんなことに気をつけていけばよいですか。」 ※上記課題の記述内容の比較検討
	ワークシート （毎時間） 事後アンケート	質問：「この授業の感想を自由に書いてください。」 （自由記述） 質問:「今回の３時間の授業の感想を自由に書いてください。」（自由記述）

３　単元の目標・評価規準・概要

本検証授業は、『新学習指導要領』の総則等の内容を踏まえ、『高等学校学習指導要領（平成21 年告示)』(以下、『現行学習指導要領』という）に基づき授業を実施した。

（１）学習指導要領の内容

生涯にわたって健康を保持増進するには，生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていること。

（２）単元の目標

ア　加齢と健康について、関心をもち、学習活動に進んで取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】

イ　加齢と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。【思考・判断】

ウ　加齢と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活や社会のかかわりを理解することができるようにする。【知識・理解】

（３）単元の評価規準

関心・意欲・態度 【観察】	思考・判断 【ワークシート】	知識・理解 【ワークシート】
①加齢と健康について、資料を見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①加齢と健康について、資料等で調べたことを基に課題を見付けたり、整理したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①加齢に伴う心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための個人でできる取組について理解したことを発言したり、記述したりしている。 ②生涯にわたって健康を保持増進するには、高年期の健康課題に応じた環境づくりが関わっていることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 ③生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

（４）単元の概要（３時間）

時間	1 （40 分）	2 （40 分）	3 （45 分）
内容	加齢と健康 オリエンテーション	加齢と健康	加齢と健康
学習指導要領 解説の記載事項	加齢に伴う心身の変化には、形態面及び機能面に変化がみられること。中高年期を健やかに過ごすためには、若い時から適切な健康習慣を保つなど自己管理をすることが重要であること。	中高年の健康状態、生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていること。高齢社会の到来に対応して、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。	中高年の健康状態、生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていること。高齢社会の到来に対応して、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。
0	出席確認 1　オリエンテーション 2　本時の到達目標の確認	出席確認 1　前回の内容の振り返り 本時の到達目標の確認	出席確認 1　前回の内容の振り返り 本時の到達目標の確認
5 10 15 20 25 30 35 40 45	3　手記を読み、自分の考えをまとめる。 【発問１】 手記を読んで、「祖母」、「母」はそれぞれどんな気持ちで生活を送っていたと思いますか。 ○手記に出てくる「祖母」や「母」のそれぞれの気持ち、自分がその家族の一員だったらどうするのか、理由も併せて考える。 【発問２】 あなたが文中の「私」だったら、祖母が「認知症」であると分かった時、家族としてどのような行動を取りますか。 4　健康に過ごしていくためには何が必要かを理解する。 【発問３】 年をとっても健康に若々しく過ごしていくために、これから先自分にできることは何ですか。 5　本時のまとめ、振り返り 【自己評価】	2　「高齢ドライバーの交通事故」に関する映像を見る。 【発問１】 映像に出てくる被害にあった高校生の「母親」、加害側になった本人や家族の気持ちを考える。 3　高齢者の交通事故の原因について考える。 【発問２】 高齢ドライバーが事故を起こしてしまう原因は何だろう。 ○認知機能の低下が多くの事故の原因になっていることを理解する。 4　高齢ドライバーの事故を防止するための対策について理解する。 5　どのような社会的対策をとればよいか考える。 【発問３】 「運転免許自主返納制度」、「高齢者の運転免許講習」、「安全運転サポート車」の中から、気になる対策を一つ選び、各対策の課題や課題の解決方法を調べ、まとめましょう。 6　本時のまとめ、振り返り 【自己評価】	2　手記を読み、自分の考えをまとめる。 【発問１】 「祖母の変化を家族ごととして考える（前編・後編）」を読んで、祖母が充実して暮らしていくために、「家族として大切にすべきこと」は何だと思いましたか。 3　将来、健康に生きていくためにどんな生活を送ればよいか理解する。 【発問２】 ①自分や身近な人たち（家族や大切な人など）が健康に生きていくために、具体的にどんなことに気をつけていけばよいですか。 ②中高年期や高齢期を大切な人（家族など）とともに、健康で安心して暮らしていくためにはどんな社会をつくっていけばよいと思いますか。 ○発問２について、自分の生活を振り返り、ワークシートにまとめていく。 4　本時のまとめ、振り返り 【自己評価】
評価機会　関・意・態	①		
評価機会　思・判		①	①
評価機会　知・理	①	②	③

４　学習指導の工夫

（１）「心情に働きかける教材」について

本研究では、指導内容や学習者に応じた教材となる素材を選び、表４、５、６の各教材を作成した。授業では、使用する手記や映像（図５、７、９）の内容を共有した後、内容に関わる「祖母」や「母」、「家族」といった立場を設定して心情の変化を問う発問をし、それぞれの立場を自分に置き換えて考えさせた。授業の最後に加齢に伴う健康課題について、自分の生活と関連付けた発問をし、「自分事」としての認識を持つために考えさせた。

表４　１時間目の学習内容及び教材等について

学習内容	加齢に伴う心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための個人的な取組	
学習課題	加齢に伴う心身の変化や、健康に生活していく上で自己管理、人との交流、生きがいの重要性について考える。	
教材	名称	祖母の変化を家族ごととして考える（前編）
	内容	健康に過ごしていた祖母が、後に認知症と診断されるまでの間の加齢に伴う心身の変化や、祖母を支える家族の話を手記にまとめた。
	素材	筆者とその家族の認知症に係る体験談
	発問	（発問①） 手記を読んで、「祖母」、「母」はそれぞれどんな気持ちで生活を送っていたと思いますか。
		（発問②） あなたが文中の「私」だったら、祖母が「認知症」であると分かった時、家族としてどのような行動を取りますか。
		（発問③） 年をとっても健康に若々しく過ごしていくために、これから先自分にできることは何ですか。

表５　２時間目の学習内容及び教材等について

学習内容	高齢期の健康課題に応じた環境づくりの重要性	
学習課題	高齢社会に対する様々な対策や社会として取り組むべき問題について考える。	
教材	名称	高齢者運転事故を起こさないために・・・ 娘奪われた遺族の訴え（原文そのまま記載）
	内容	高校生が犠牲になった高齢ドライバーによる交通事故のニュース（映像）を取り上げた。
	素材	高校生が犠牲になった高齢ドライバーによる交通事故のニュース
	発問	（発問①） 映像に出てくる被害にあった高校生の「母親」、加害側になった本人や家族の気持ちを考える。
		（発問②） 高齢ドライバーが事故を起こしてしまう原因は何だろう。
		（発問③） 「運転免許自主返納制度」、「高齢者の運転免許講習」、「安全運転サポート車」の中から、気になる対策を一つ選び、各対策の課題等を調べ、どうすれば課題を解決できるか自分の考えをまとめましょう。

表６　３時間目の学習内容及び教材等について

学習内容	生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくり	
学習課題	高齢社会に対応した保健・医療・福祉の連携と総合的な対策について考える。	
教材	名称	祖母の変化を家族ごととして考える（後編）
	内容	１時間目の手記の続き。認知症の進行に伴う祖母の変化や支える家族の話を手記にまとめた。
	素材	筆者とその家族の認知症に係る体験談
	発問	（発問①） 「祖母の変化を家族ごととして考える（前編・後編）」を読んで、祖母が充実して暮らしていくために、「家族として大切にすべきこと」は何だと思いましたか。
		（発問②） 自分や身近な人たち(家族や大切な人など)が健康に生きていくために、具体的にどんなことに気を付けていけばよいですか。

ア　１時間目使用教材：「祖母の変化を家族ごととして考える（前編）」

生徒が加齢に伴う健康課題について身近な問題として考えられるようにするための素材として、筆者とその家族の認知症に係る体験談を基に手記を作成した。その概要は図５のとおりであり、図６は１時間目に使用した発問のスライドと実際の教材活用場面である。

１時間目に使用する教材は、図５の手記を読み、健康に過ごしていた祖母が後に認知症と診断されるまでの間の心情の変化や、祖母を支える家族の心情の変化について考え、その内容に合わせて、中高年期を健康に過ごすために、「加齢に伴う心身の変化」、「若い頃から適切な健康習慣を保つことや定期的に健康診断を受けることなど自己管理をする」、「生きがいをもつことや家族や親しい友人との良好な関係を保つこと、地域との交流をもつことなどの重要性」などについて理解することを学習のねらいとした。

「祖母の変化を家族ごととして考える（前編）」

28歳の私は、母、父、姉の4人家族で、姉は結婚し家を出たため、私と共働きの両親の3人で暮らしている。近所には祖母(母側)も一人暮らしをしており、一緒に外食をしたり、旅行に行ったりと良好な関係だった。祖母は若い頃から同じ職場で長く働いていたので、知識や経験も豊富、職場の人からよくしてもらっていたのもあり、65歳を過ぎても元気に働いていた。

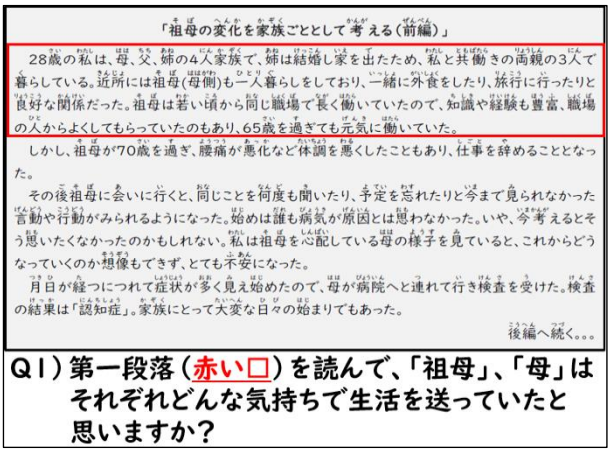
しかし、祖母が70歳を過ぎ、腰痛が悪化するなど体調を悪くしたこともあり、仕事を辞めることとなった。

その後祖母に会いに行くと、同じことを何度も聞いたり、予定を忘れたりと今まで見られなかった言動や行動がみられるようになった。始めは誰も病気が原因とは思わなかった。いや、今考えるとそう思いたくなかったのかもしれない。私は祖母を心配している母の様子を見ていると、これからどうなっていくのか想像もできず、とても不安になった。

月日が経つにつれて症状が多く見え始めたので、母が病院へと連れて行き検査を受けた。検査の結果は「認知症」。家族にとって大変な日々の始まりでもあった。

後編へ続く。。。

図５　１時間目のワークシートに掲載した実際の手記



「祖母の変化を家族ごととして考える（前編）」

28歳の私は、母、父、姉の4人家族で、姉は結婚し家を出たため、私と共働きの両親の3人で暮らしている。近所には祖母(母側)も一人暮らしをしており、一緒に外食をしたり、旅行に行ったりと良好な関係だった。祖母は若い頃から同じ職場で長く働いていたので、知識や経験も豊富、職場の人からよくしてもらっていたのもあり、65歳を過ぎても元気に働いていた。

しかし、祖母が70歳を過ぎ、腰痛が悪化など体調を悪くしたこともあり、仕事を辞めることとなった。

その後祖母に会いに行くと、同じことを何度も聞いたり、予定を忘れたりと今まで見られなかった言動や行動がみられるようになった。始めは誰も病気が原因とは思わなかった。いや、今考えるとそう思いたくなかったのかもしれない。私は祖母を心配している母の様子を見ていると、これからどうなっていくのか想像もできず、とても不安になった。

月日が経つにつれて症状が多く見え始めたので、母が病院へと連れて行き検査を受けた。検査の結果は「認知症」。家族にとって大変な日々の始まりでもあった。

後編へ続く。。。

Q1）第一段落（赤い□）を読んで、「祖母」、「母」はそれぞれどんな気持ちで生活を送っていたと思いますか？

図６　１時間目に使用した発問のスライドと実際の教材活用場面

イ　２時間目使用教材：「高齢者運転事故起こさぬため・・・娘奪われた遺族の訴え」

２時間目には同年代の高校生が犠牲になった高齢ドライバーによる交通事故のニュース（映像）を取り上げた。その概要は図７のとおりであり、図８は２時間目の授業で映像を視聴している場面と生徒の活動の様子である。

ニュースの中で亡くなった高校生の母親等が社会的な対策について言及しており、高校生の母親や加害側の家族の心情を考える活動を通して、免許返納制度等を生徒に考えさせるきっかけの教材とした。また、加害者もなりたくてなったわけではないことについても触れ、社会として取り組むべき問題としての気付きを促した。

本教材は映像を基に、「中高年の健康状態などに対して様々な施策が行われていること」などについて理解することを学習のねらいとした。

「高齢者運転事故を起こさないために・・・」

事故全体の件数は年々減ってきているが、75歳以上の高齢ドライバーによる事故の割合は増え続けています。全国で相次ぐ死亡事故を受け、現在高齢者で免許返納をする人が増えています。しかし、高齢者ドライバーの状況はさまざまで、運転を続けるのか免許を返納するのか、判断は分かれています。返納を決意した理由もさまざまなようです。

交通事故への不安から返納する人がいる一方、他の交通手段が少ない地域では運転せざるを得ない事情もあり、どうしても免許が手放せない人たちもいます。

事故にあった高校生の母親は、「高齢者ドライバーの今後のハンドルを握る手にこの事故は大きな影響を与えると思う。同じような事故が起こらないように、免許制度の見直しなど今後も社会に働きかけていきたい。また高齢者の方が車の運転をしなくてもよくなる、そんな社会になるためのスタートでもあると思っている。」と話している。

※「高齢者運転事故起こさぬため・・・娘奪われた遺族の訴え（内容一部抜粋）

（ANNnews 2016 年 12 月 31 日）

図７　２時間目のワークシートに掲載した本教材の概要

※上記の内容は、「テレ朝 news-テレビ朝日のニュースサイト」のウェブページより一部引用。（https://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000091249.html　2016年12月31日）より閲覧可能（2022 年 2 月 15 日現在）。

図８　２時間目の授業で映像を視聴している場面と生徒の活動の様子

ウ　３時間目使用教材：「祖母の変化を家族ごととして考える（後編）」

３時間目の教材は、１時間目の内容の続きであり、認知症の進行に伴う祖母の変化や支える家族の話を手記にまとめた。その概要は図９のとおりであり、図 10 は３時間目に使用した発問のスライドと実際の教材活用場面である。

３時間目に使用する教材は、祖母が認知症と診断された後、保健・医療・福祉に関連するサービスを活用しながら祖母を支えていく家族の心情を考える活動を通して、その内容を基に、「高齢社会に対応した保健・医療・福祉の連携と総合的な対策の必要性」などについて理解することを学習のねらいとした。

「祖母の変化を家族ごととして考える（後編）」

祖母はずっと一人で住んでいたこともあり、「認知症」の診断を受けた後は家族で相談をし、高齢者向けの賃貸住宅に引っ越すことを決めた。それからは、仕事をしていた時に比べて人との関わりも減っていった。

病気の進行にともない、ニュースで聞いたことがあるようなことが連日起きるようになった。知らない間にお金が減ったり、夜に外を出歩いて転倒しケガをしたり、どこでお金を使ったか、なぜ外に出かけたのか、何を聞いてもわからない、そんな日々が続いた。いつどこで何が起こるかわからない状況になったので、母は仕事を辞め、毎晩祖母の様子を見に行くことにした。私も時間がある時は母と一緒に祖母の様子を見に行っていたが、連日の対応に母も疲れ果て、体調を崩してしまった。この状況を家族としてどうしたらいいのか悩んでいた。

悩んだ末に、母は担当の※1ケースワーカーの方に相談をし、高齢者向けの賃貸住宅から介護や看護、リハビリテーションなど必要なサービスを受けることができる特別養護老人ホームへと場所を移して、祖母の様子を見守ることにした。特別養護老人ホーム入居後は、施設の方のサポートもあり、祖母も少しずつ元気を取り戻していった。またそれに伴って母も介護の負担が減り、徐々に体調も戻り始め、それからは定期的に祖母の顔を見に行きながら様子を見ることになった。

以前は自分の足で行きたいところに行っていた祖母。今は車椅子に乗って生活している。以前に比べて腕も細くなり、会うと笑顔で接してくれるが、私のことを覚えているかどうかはわからない。私のためにいろんなことをしてくれた祖母のために、もっとできることがあったのではないか、会いに行って祖母の顔を見ると、そんなことを考えてしまう。4月で 88歳を迎えた祖母は元気に生活している。

※「ケースワーカー」：福祉の専門家として病人や身体障害を抱えている家族、一人暮らしの高齢者など様々な理由により地域で福祉サービスを必要としている人に社会福祉の立場から相談や助言を行い支援する人

図９　３時間目のワークシートに掲載した実際の手記

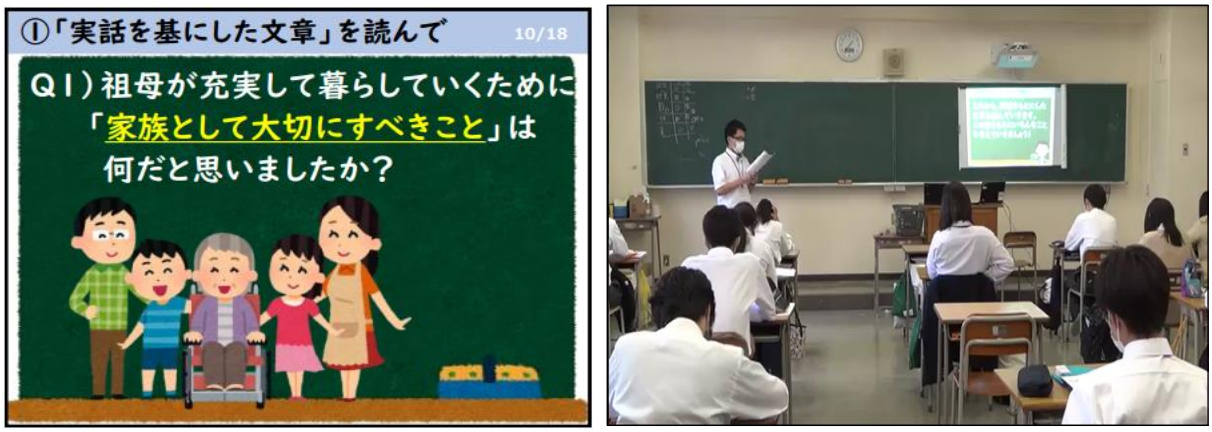


図 10　３時間目に使用した発問のスライドと実際の教材活用場面

（２）その他の学習の工夫

１時間目はクラスの半数がオンラインで授業を受けていたため、図 11 のように学習支援ソフトで画面共有をしながら、左半分をプレゼンテーションソフトのスライド、右半分でチャット機能を活用し、生徒がオンラインでも授業に参加できるように授業を実施した。

また、この状況でも自分の考えや意見を表出したり、共有したりする環境をつくりたいと考え、図 12 のように質問機能やアンケート機能を活用した。

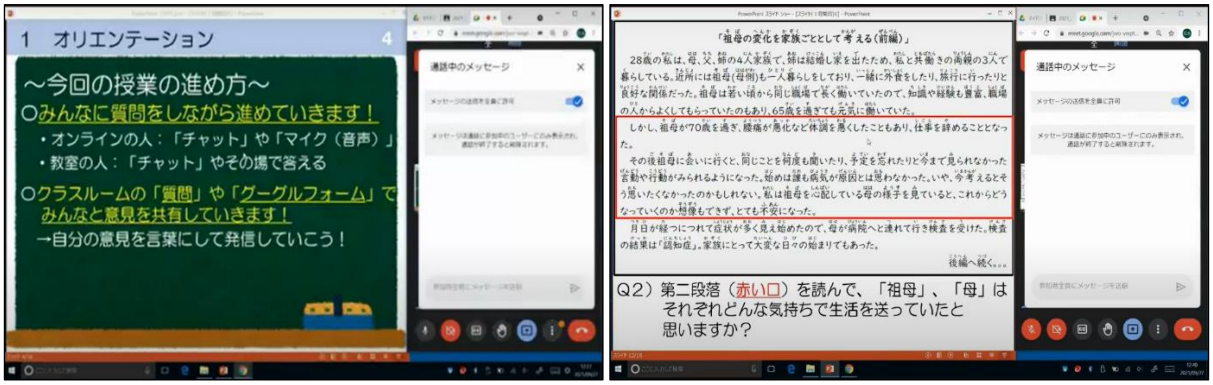


図 11　オンライン授業の画面共有中の画面（１時間目）

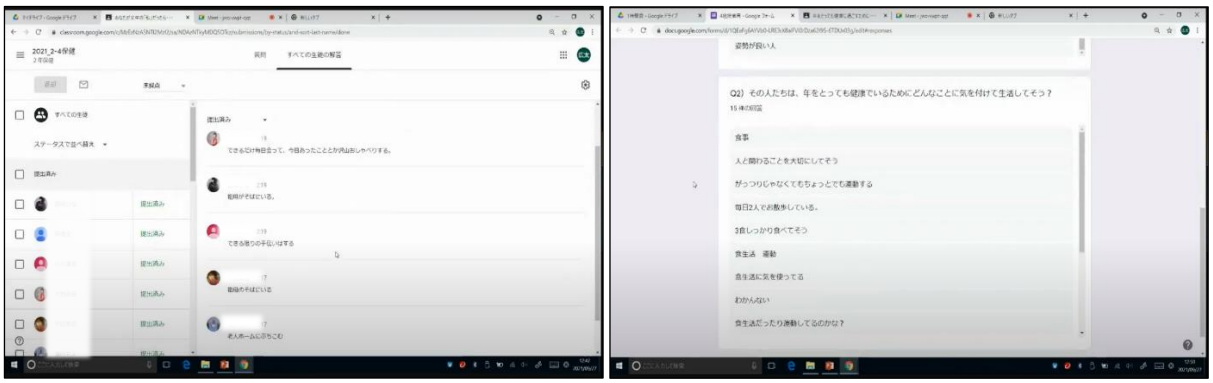


図 12　質問機能やアンケート機能の活用場面（１時間目）

５　授業の実際

【本時の展開】（１／３時間目）

（１）本時の学習のねらい

＜関心・意欲・態度①＞加齢と健康について、資料を見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

＜知識・理解①＞加齢に伴う心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための個人でできる取組について理解することができるようにする。

（２）本時の評価内容と評価方法

≪関心・意欲・態度①≫【観察】

≪知識・理解①≫【ワークシート】※オンライン併用のため、電子データを提出させた。

（３）展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ５分	１　オリエンテーション ２　本時の到達目標の確認をする。	・授業に対する心構え、意義について説明する。 ・本時の到達目標を伝える。
	本時の到達目標　この授業が終わった時、みんなはこれができるようになる。 ①「加齢に伴う心身の変化」について理解し、具体例を挙げられるようになる。 ②加齢と健康についての学習課題に、自分のこととして取り組むことができるようになる。	
なか30分	３　手記を読み、自分の考えをまとめる。 【発問１】 手記を読んで、「祖母」、「母」はそれぞれどんな気持ちで生活を送っていたと思いますか。	・話の理解を深めるために読み上げて伝える。 ・生徒に想像させ、自分の思ったこと、考えたことを答えたり、チャットに書き込んだりするように促す。
	○手記に出てくる「祖母」や「母」のそれぞれの気持ちや自分がこの家族の一員だったらどうするのか、理由も併せて考える。	・形態面、機能面の変化や加齢に伴う心身の変化には、個人差があることを理解させる。加齢に伴って高まっていくものについても触れる。
	【発問２】あなたが文中の「私」だったら、祖母が「認知症」であると分かった時、家族としてどのような行動を取りますか。	
	【予想される答え】 祖母に優しく接する　母を助ける　等	・学習支援ソフトの質問機能で回答させ、全員で共有させる。
	４　健康に過ごしていくためには何が必要かを理解する。 ○年をとっても健康で生きている人にどのような人がいるか、またその人たちはどのようなことに気を付けているかを考える。	・アンケート機能を活用して生徒に送信させ、集約した結果を画面に映し共有する。
	【発問３】年をとっても健康に若々しく過ごしていくために、これから先自分にできることは何ですか。	
	【予想される答え】 運動する　人との繋がりを大切にする　等	・生活習慣に関連することから、いろんな見方で考えるように促す。 ≪関心・意欲・態度①≫
まとめ５分	５　本時のまとめ、振り返り【自己評価】 ○発問について自分の意見をまとめ、授業の振り返りを行う。	・共有した意見を参考にして、発問に対する自分の意見をまとめ、授業の振り返りを電子データで提出するように伝える。 ≪知識・理解①≫

【授業者としての振り返り】クラスの半数がオンライン形式で授業を受ける形になり、生徒の様子が見えないため不安な部分も多かったが、教室にいる生徒もオンラインの生徒も授業に参加できるように工夫（p. 20 参照）をしたことで、どちらの生徒も積極的に取り組む姿勢がみられた。40 分という短い時間だったが、それぞれの質問に対して生徒が自分の考えを表出していたのはとてもよかった。

【研究の視点からの振り返り】心情を問う発問を通して、手記の「祖母」や「母」、「自分」などそれぞれの立場になって考えることで、具体的にその場面をイメージすることができ、一人ひとりが自分の考えを持つことができたと思われる。

【本時の展開】（２／３時間目）
（１）本時の学習のねらい
＜思考・判断①＞加齢と健康について、資料等で調べたことを基に課題を見付けたり、整理したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。
＜知識・理解②＞生涯にわたって健康を保持増進するには、高年期の健康課題に応じた環境づくりが関わっていることについて理解することができるようにする。
（２）本時の評価内容と評価方法
≪思考・判断①≫　【ワークシート】
≪知識・理解②≫　【ワークシート】
（３）展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ５分	１　前回の内容の振り返り、本時の到達目標を確認する。	○本時の到達目標を伝える
	本時の到達目標 ①高齢者による交通事故に関する課題を自分事として考えることができるようになる。 ②高齢者による交通事故を減らすには、環境づくり（社会的対策）が大切であることを理解し、具体例を挙げられるようになる。	
なか30分	２　「高齢ドライバーの交通事故」に関する映像を見る。 【発問１】 映像に出てくる被害にあった高校生の「母親」、加害側になった本人や家族の気持ちを考える。	・何人か生徒に聞く。 ・誰もが被害者や加害者になってしまう可能性があることを伝える。
	３　高齢者の交通事故の原因について考える。	
	【発問２】高齢ドライバーが事故を起こしてしまう原因は何だろう。	
	【予想される答え】 判断力低下、操作ミス、反射神経が鈍化　等	・前回の内容や映像からイメージしたものをワークシートに書かせる。
	○認知機能の低下が多くの事故の原因になっていることを理解する。	
	４　高齢ドライバーの事故を防止するための対策について理解する。 ○高齢者の事故の原因は、認知機能の低下によるものが多く、事故を防止するために様々な取組があることを理解する。	・高齢者の交通事故について、何か知っている対策があるか生徒に聞く。 ・「運転免許自主返納制度」や「高齢者講習」、「安全運転サポート車」など現在行われている対策についてどのような対策が行われているのか説明する。
	５　どのような社会的対策をとればよいか考える。	・被害者や加害者とならないように、様々な対策について考えていく必要があることを伝える。
	【発問３】「運転免許自主返納制度」、「高齢者の運転免許講習」、「安全運転サポート車」の中から、気になる対策を一つ選び、各対策の課題や課題の解決方法を調べまとめましょう。	
	○５で扱った内容について、興味がある対策を一つ選び、選んだ対策の課題と課題の解決方法について考える。	・今回扱った対策以外に考えたものがあれば、ワークシートに自由に書いてよいことを伝える。 ≪思考・判断①≫
まとめ５分	６　本時のまとめ、振り返り【自己評価】 ○発問について自分の意見をまとめ、授業の振り返りを行う。	・調べてまとめたことと授業の振り返りをアンケート機能を活用して送信するように伝える。 ≪知識・理解③≫

【授業者としての振り返り】高校生が関わる映像だったので、生徒も集中して見ていた。様々な発問を通して生徒が何を感じ、何を考えたのか、共有する時間がもう少し確保できると、より学習内容の深まりがみられるのではないかと感じた。
【研究の視点からの振り返り】映像を見た後に、それぞれの立場の心情を考えることにより、後半部分の社会的対策を、自分の家族や身近な人と関連付けながら考えることができたと思われる。

【本時の展開】（３／３時間目）
（１）本時の学習のねらい
＜思考・判断①＞加齢と健康について、資料等で調べたことを基に課題を見付けたり、整理したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。
＜知識・理解③＞生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることについて、理解することができるようにする。
（２）本時の評価内容と評価方法
≪思考・判断①≫　【ワークシート】
≪知識・理解③≫　【ワークシート】
（３）展開

	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価
はじめ５分	１　本時の内容を確認する。	・本時の到達目標を伝える
	本時の到達目標 ①自分や身近な人が長く健康で生きていくために何をすべきか説明できるようになる。 ②健康で安心して暮らしていく社会をつくるために、どんな対策が必要か説明できるようになる。	
	○前回の内容の振り返り	・３時間のまとめの時間であることを伝える。
なか30分	２　手記を読み、自分の考えをまとめる。	・話の理解を深めるために前編も併せて読み上げて伝える。
	【発問１】「祖母の変化を家族ごととして考える（前編・後編）」を読んで、祖母が充実して暮らしていくために、「家族として大切にすべきこと」は何だと思いましたか。	
	【予想される答え】 一人ひとりが健康に気を付ける 家族で支え合う　等	・何人かの生徒に聞く。 ・身近な人（家族など）や社会全体で支え合い、明るく健康に生きていくことが大切であることを伝える。
	３　将来健康に生きていくためにどんな生活を送ればよいか理解する。	・イメージしやすくするために、年をとっても元気に過ごしている人の例や未病改善の取組、自分の経験等を踏まえて説明する。
	【発問２】①自分や身近な人たち（家族や大切な人など）が健康に生きていくために、具体的にどんなことに気をつけていけばよいですか。 ②中高年期や高齢期を大切な人（家族など）とともに、健康で安心して暮らしていくためにはどんな社会をつくっていけばよいと思いますか。	
	○発問２について、自分の生活を振り返り、ワークシートにまとめていく。	・前回の授業を振り返り、自分の思ったこと、考えたことをワークシートに書かせる。 ≪思考・判断①≫
まとめ１０分	４　本時のまとめ、振り返り【自己評価】 ○発問について自分の意見をまとめ、授業の振り返りを行う。	・今の自分にできることを考え続けていくことが、自分や家族（大切な人）が健康に生きるために重要であることを伝える。 ・アンケート機能を活用して授業の振り返りを送信するように伝える。 ≪知識・理解②≫

【授業者としての振り返り】３時間のまとまりの中で、それぞれの立場や視点を明確にすることで、一つひとつの課題に対して生徒が取り組みやすい学習環境をつくることができた。また、生徒が積極的に課題に取り組み、自分の生活に関連付けながら意見や考えをまとめている姿がとても印象的だった。
【研究の視点からの振り返り】自分の実体験を中心に、経験したことやその時の心情を伝えながら、加齢に伴う健康課題を「自分の健康課題」という視点だけでなく、そこに「家族の健康課題を考える」という視点を加えることで、より様々な健康課題を「自分事」として考えることができたのではないかと考えられる。

６　結果と考察

検証授業で得られたデータを基に、検証の視点（p. 12－13 参照）に沿って仮説を検証することとした。

検証授業の出席者数は、表７のとおりである。また、事前・事後・授業アンケートの回収状況については、表８に示したとおりである。

表７　検証授業の出席者数

	１時間目（オンライン併用）	２時間目	３時間目
２年Ａ組（23 名）	20 名	20 名	20 名
２年Ｂ組（25 名）	20 名	23 名	23 名
２年Ｃ組（25 名）	24 名	20 名	21 名
合計（73 名）	64 名	63 名	64 名

表８　事前・事後・授業アンケート、回収状況

	事前	授業①	授業②	授業③	事後
２年Ａ組（23 名）	20 名	20 名	20 名	20 名	22 名
２年Ｂ組（25 名）	19 名	20 名	23 名	23 名	24 名
２年Ｃ組（25 名）	22 名	24 名	20 名	21 名	22 名
合計（73 名）	61 名	64 名	63 名	64 名	68 名

表９　全授業出席者かつ全アンケート提出者数

	全授業出席者かつ全アンケート提出者数
２年Ａ組（23 名）	14 名
２年Ｂ組（25 名）	17 名
２年Ｃ組（25 名）	18 名
合計（73 名）	**49 名**

対象クラスＡ組、Ｂ組、Ｃ組の調査結果における、複数項目のデータを比較したところ、項目によって差がみられたが、３クラスとも同じ内容の授業を行ったため、本研究では、３クラスを一つの集団として分析することとした。

また、本研究でのアンケートの分析においては、３時間出席した者、かつ事前・事後アンケートの両方に回答している 49 名（表９参照）のデータのみを対象とした。

本研究においては、４件法によるアンケート結果において、「そう思う」、「どちらかというとそう思う」を合わせて「そう思う群」、「どちらかというとそう思わない」、「そう思わない」を合わせて「そう思わない群」として、グラフには数値を太枠で囲んで示した。また、本研究において４件法と表記する場合の選択肢は、一部の質問を除き、上記選択肢を意味することとする。

そして、割合を表記したグラフに関しては、小数点第１位を四捨五入しているため、合計が 100％にならない場合がある。

なお、文中の生徒の記述については、誤字・脱字を除き、生徒が記述したままの表現で記載し、太字、下線は筆者が加筆した。

（１）生徒は保健の授業をどのように捉えたか

「生徒は授業をどのように捉えたか」を把握するため、「生徒による授業評価の項目」を活用し、生徒が毎時間の授業をどのように捉えたかを把握することとした。「生徒による授業評価の項目」（p. 10 表３参照）の四つの質問に、４件法で生徒に授業を評価してもらった。

ア　保健の授業は興味深かったか

図 13 は毎時間授業後に実施したアンケートの「保健の授業は、興味深かったですか。」という質問（４件法）に「とても興味深かった」、「興味深かった」、「興味深くなかった」、「全く興味深くなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の回答割合である。

表 10 は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

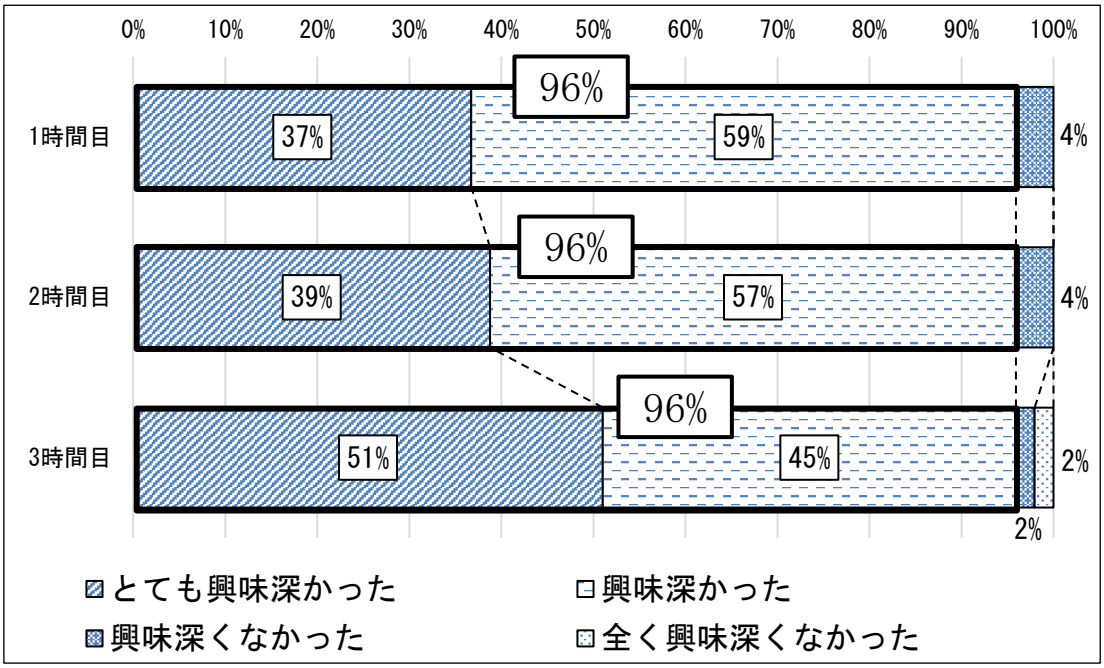


図 13　「保健の授業は、興味深かったですか。」に対する回答割合の３時間の比較

表 10　「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

分かりやすく興味を持って授業を受けられました。（１時間目）
最近認知症のことを考えていたので、今回の授業を深く学べることができました。（１時間目）
高齢者の事故はこの間も話題になっていたし最近多いから興味を持つことができた。（２時間目）
すごい想像しやすくて、ためになる授業だったからよかった。興味深かった。（３時間目）

図 13 を見ると、３時間とも「とても興味深かった」と「興味深かった」の肯定的な回答をした生徒が 96%と高い値となった。また、３時間目では「とても興味深かった」と回答した生徒が１時間目と比較して、14 ポイント上昇する結果となった。

また、表 10 を見ると、下線部のような「分かりやすい」や「想像しやすい」、「話題になっていた」などといった記述がみられた。

これらのことから、身近に感じる（イメージしやすい）素材を選択したことや、映像を活用したことにより、生徒は興味を持って授業に取り組むことができたと考える。

イ　保健の授業の中で、新しい発見があったか。

図 14 は毎時間授業後に実施したアンケートの「保健の授業の中で、新しい発見がありましたか。」という質問（４件法）に「かなりあった」、「あった」、「なかった」、「全くなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の回答割合である。

表 11 は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

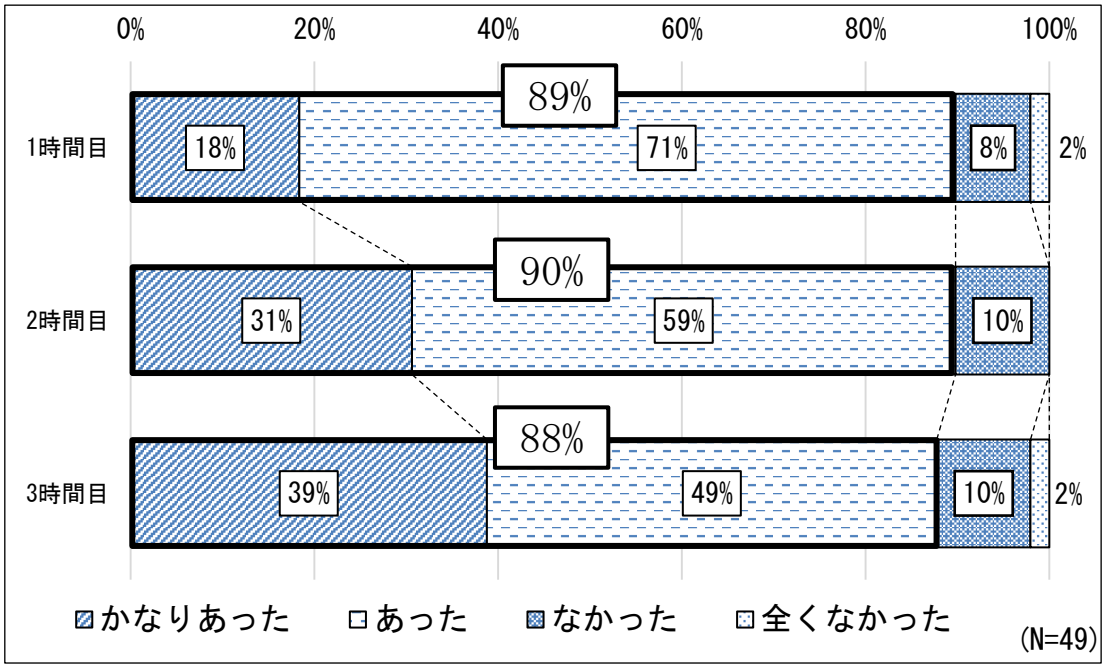


図 14　「保健の授業の中で、新しい発見がありましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

表 11　「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

高齢者運転事故が増えている事は前から知っていたけど、**免許返納などの制度がある事を初めて知りました**。（２時間目）
授業をはじめるまでは**健康や祖母や祖父の健康などを考えてなかったけど**、**三時間授業をとうして健康の大切さ高齢者への心遣いを大切にしようとおもいました**。（３時間目）
健康に生きていくためには**運動も大事だけど**記憶力を下げないためには**コミュニケーションも大事**なんだなと思いました。（３時間目）

図 14 を見ると、３時間とも「かなりあった」と「あった」については、90%近くの生徒が肯定的な回答をしており、また、１時間毎に「かなりあった」と回答した生徒が約 10 ポイントずつ上昇する結果となった。

また、表 11 を見ると、下線部のような新たに考えたことや学んだことに関する記述がみられた。

これらのことから、使用した手記や映像に関わる「祖母」や「母」、「家族」などの心情の変化を考えたり、社会的な対策などについて自ら調べ、解決方法を考える活動を取り入れたりしたことにより、生徒の新たな気付きに繋げることができたと考える。

ウ　保健の授業の中で、いろいろな見方で考えることができたか。

図 15 は毎時間授業後に実施したアンケートの「保健の授業の中で、いろいろな見方で考えることができましたか。」という質問（４件法）に「かなりできた」、「できた」、「できなかった」、「全くできなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の回答割合である。

表 12 は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

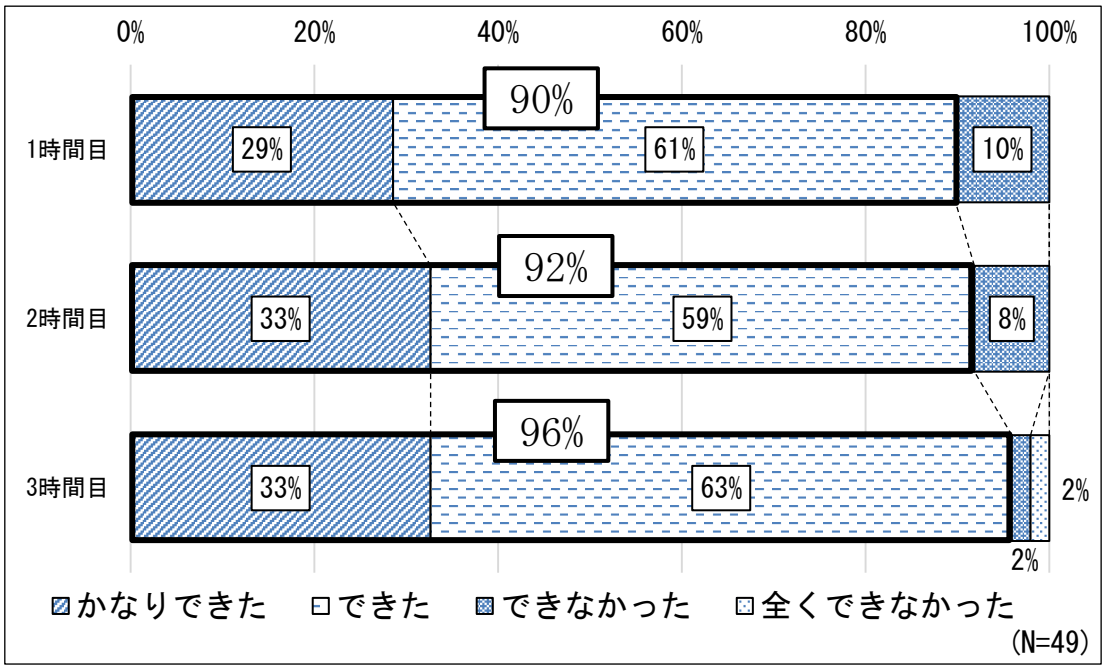


図 15　「保健の授業の中で、いろいろな見方で考えることができましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

表 12　「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

被害者のことばかりしか考えてこなかったので、**高齢者側の原因を考えてみた**のが、すごく新鮮でした。（２時間目）
歳をとるとどんなに健康を気にかけてても視力の低下、筋力の衰え等は防ぐことは出来ない。だから免許を返納したり、 持っていても運転しない等をして欲しいけど、**住んでる環境によってはどうしても運転しなきゃならなかったり、自分はまだ大丈夫と思ってる人の方が多いから**まだまだポスター等で呼び掛けが必要だなと思いました。（２時間目）
高齢者だけが運転について考えるのではなく社会のみんなが高齢者の運転について考えていかなければいけないなと思った。（３時間目）

図 15 を見ると、３時間とも「かなりできた」と「できた」と 90%以上の生徒が肯定的な回答をしており、「できなかった」、「全くできなかった」と回答した生徒に関しては、１時間目と比較して６ポイント減少する結果となった。

また、表 12 を見ると、下線部のような自分以外の視点でも考えている記述がみられた。

これらのことから、手記や映像に関わる登場人物を自分に置き換えて考えさせる活動を取り入れたことにより、一つの課題に対していろいろな見方で考えることができたと考える。

エ　保健の授業で、生活に役立つような内容があったか。

図 16 は毎時間授業後に実施したアンケートの「保健の授業の中で、生活に役立つような内容がありましたか。」という質問（４件法）に「かなりあった」、「あった」、「なかった」、「全くなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の回答割合である。

表 13 は授業アンケートの「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）である。

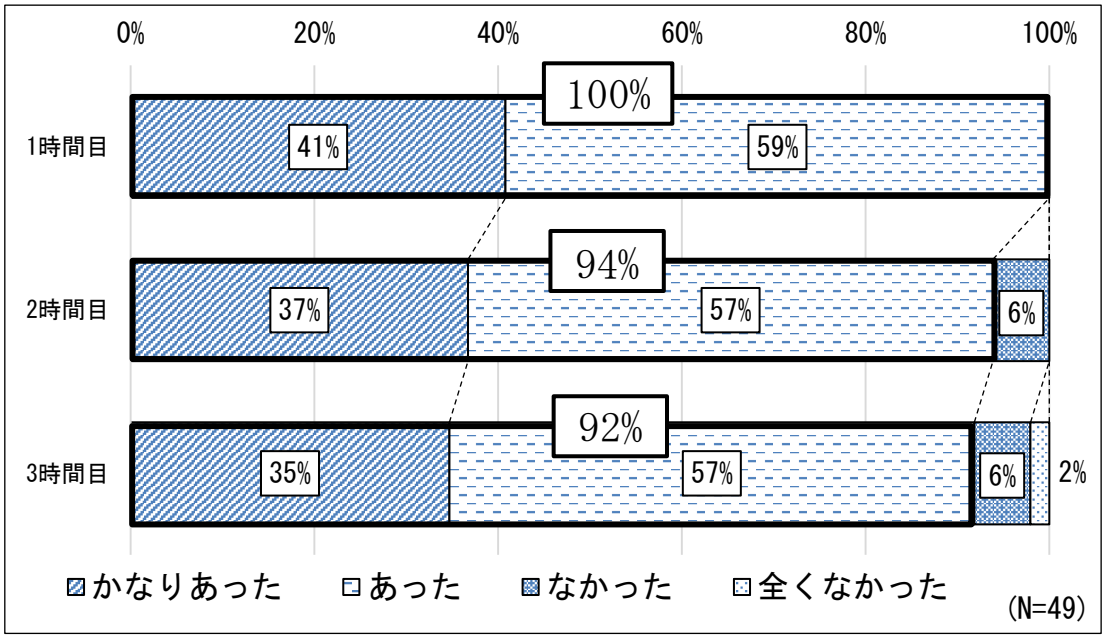


図 16　「保健の授業の中で、生活に役立つような内容がありましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

表 13　「この授業の感想を自由に書いてください」（自由記述）に対する回答（抜粋）

認知症にもし私の祖母がなってしまったら、家族みんなで協力し合い、祖母の言葉にも耳を傾け、**みんなが負担してしまわないように介護サービスを利用したり**して祖母と関わっていきたいとも思った。（３時間目）
今回の授業で認知症に対して今まで以上にしっかりと考えることが出来た。**祖母とは沢山優しく接してコミュニケーションを取っていき、家族みんなで支え合い、日常生活に生かしていこうと思ったことをしっかりと成し遂げていきたい**と思った。また、認知症になってしまった高齢者やなりそうな高齢者を救いやすい社会になって欲しいなと思った。（３時間目）

図 16 を見ると、１時間目の「かなりあった」、「あった」の肯定的な回答をした生徒の割合は、１時間目は 100%、２・３時間目も 90%を超える高い値を示す結果となった。

また、表 13 を見ると、下線部のような自分の日常生活に関連付けている記述がみられた。

これらのことから、「自分事」としての認識を持たせるために、自分の生活と関連付けた発問をし、考えさせる活動を取り入れたことにより、生徒は自分の日常生活に照らし合わせ、その中でできることを考えることができたと考える。

○検証の視点「（１）生徒は保健の授業をどのように捉えたか」

・「興味深かったか」、「新しい発見があったか」、「いろいろな見方で考えることができたか」、「生活に役立つような内容があったか」の４点で保健の授業評価を実施した結果、どの項目も肯定的な回答が多く、ほとんどの生徒が保健の授業を肯定的に捉えていた。

・どの項目にも否定的な回答が少数あり、同一の生徒による回答が多かった。それぞれ記述等を分析してみたところ、当該生徒の授業への参加状況にも問題なく、記述内容も否定的な理由はなかった。当該生徒は、全体を通して厳しく自己評価をしている傾向が認められた。

（２）心情に働きかける教材であったか

図 17 は毎時間授業後に実施したアンケートの「今日の授業の教材である『〇〇』※で、その場面や内容をイメージすることができましたか。」という質問（４件法）に「かなりできた」、「できた」、「できなかった」、「全くできなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果であり、また図 18 は「今日の授業の教材である『〇〇』は、印象に残りましたか。」いう質問（４件法）に「かなり印象に残った」、「印象に残った」、「印象に残らなかった」、「全く印象に残らなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の回答割合である。

※「〇〇」は教材の名称であり、次のとおり。

- １時間目：「祖母の変化を家族ごととして考える（前編）」
- ２時間目：「高齢者運転事故を起こさないために・・・娘奪われた遺族の訴え」
- ３時間目：「祖母の変化を家族ごととして考える（後編）」

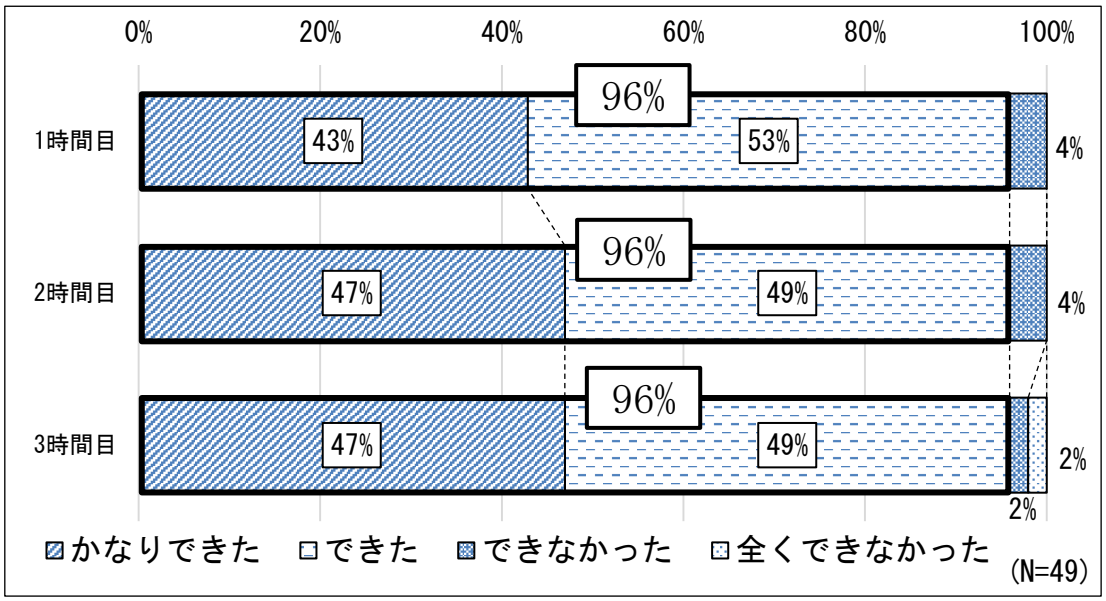


図 17　「今日の授業の教材である『〇〇』で、その場面や内容をイメージすることができましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

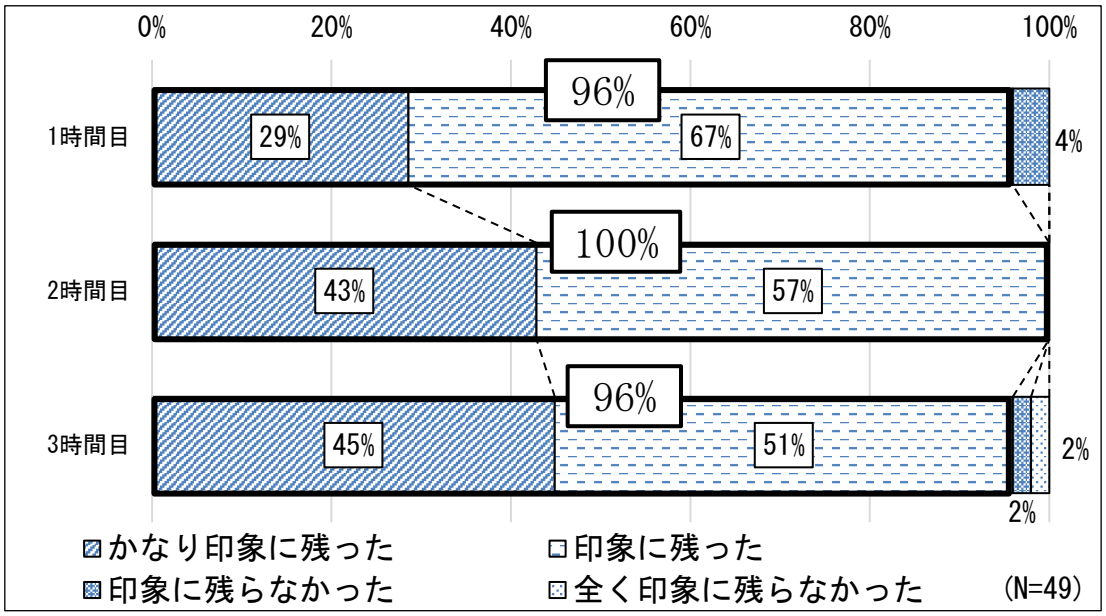


図 18　「今日の授業の教材である『〇〇』は、印象に残りましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

図 17 を見ると、３時間とも「かなりできた」と「できた」の肯定的な回答をした生徒が 96%、図 18 も同様に「かなり印象に残った」、「印象に残った」と回答した生徒が１，３時間目については 96%、２時間目については 100%と高い値となった。

また、それぞれの教材についての感想（自由記述）には次のような記述があった。

表 14　「○時間目の教材である『○○』についての感想を書いてください。」（自由記述）に対する回答（抜粋）

１時間目	教材：「祖母の変化を家族ごととして考える（前編）」
	私も自分のおじいちゃんが認知症になったときに親にたよってしまって何もできなかったから親の時は自分がやろうと思った。
	私の祖母も認知症だったので、昔のことを思い出しました。改めて考えて見ると、母も祖母も不安だったんだなぁと思いました。今出来ることをよく考えられたので、次は頑張りたいと思いました。
	自分がもしその場面にあったら何もできないなって思った。今日の授業をやってもしこのような場面があったら今日のことを参考にしたいなって思いました。
２時間目	教材：「高齢者運転事故を起こさないために・・・娘奪われた遺族の訴え」
	自分のおじいちゃんも車を使っていたけど、この前免許を返していたから、事故を起こすかもしれない前に返せて良かったなと思った。
	自分の祖母はまだ車を運転してるからそろそろこの話を持ち出そうと思いました。今日の映像を見て本当にこういうことがあるんだと知り、私もいつかこうなるのかなって不安でいっぱいでした。
	私のおじいちゃんもお年寄りだけど仕事のために車を使っているので他人事じゃないなと思いました。高齢者が事故をおこさないように色々な対策や制度があることを知ったのでおじいちゃんに教えたいと思いました。
３時間目	教材：「祖母の変化を家族ごととして考える（後編）」
	祖母が認知症になってしまい、会っても自分のことを覚えてくれているかどうか分からないのは想像以上に辛いのだろうなと思った。だからこそ、私は今のうちに沢山会いに行って、沢山会話をして優しく接していこうと思った。 また、**もし私の祖母が認知症になってしまったら**、家族みんなで協力し合い、祖母の言葉にも耳を傾け、みんなが負担してしまわないように介護サービスを利用したりして祖母と関わっていきたいとも思った。
	前編でも思ったことになるけどいつなにが起こるかわからないから自分も不安になりました。**私にもおじいちゃんとおばあちゃんがいるのでちゃんと家族で相談していきたい**とおもいました。
	先生のおばあさんもある程度、自分の介護で前よりかは家族が大変な思いをしているのを分かっていると思うから、その不安を**自分がその立場になったら、家族にその大変さを感じさせないように**息抜きをしながら介護をしていきたいと思いました。

表 14 の感想には、自分の生活や経験、身近な人や家族と関連付けて考えている記述がみられた。特に、表 14 の下線部のように教材の内容に自分や自分の家族（祖母や祖父など）を重ね合わせて考えている記述が多くみられた。

このことから、それぞれの手記や映像に関わる登場人物の立場と自分を置き換えて、「自分だったらどうするか」を考えさせる活動が有効に機能したのではないかと考えられる。

図 19 は「授業で使用した教材（手記や映像）について、自分のことや身近な人たち（家族や大切な人など）のことについて考える上で役に立ちましたか。」いう質問（４件法）に「役に立った」、「どちらかというと役に立った」、「どちらかというと役に立たなかった」、「役に立たなかった」の選択肢の中から一つ選び、「自分のこと」、「身近な人たち（家族や大切な人など）」それぞれ回答してもらった結果の回答割合である。

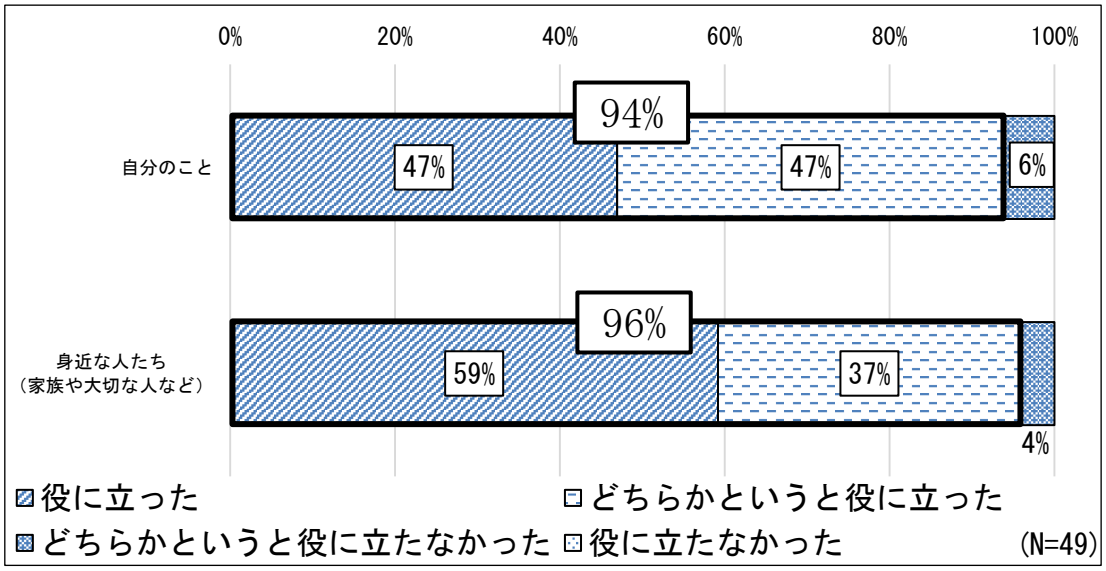


図 19　「授業で使用した教材（手記や映像）について、自分のことや身近な人たち（家族や大切な人など）のことについて考える上で役に立ちましたか。」に対する回答割合

図 19 を見ると、「自分のこと」、「身近な人たち（家族や大切な人など）」それぞれ考える上で「役に立った」と「どちらかというと役に立った」の肯定的な回答をした生徒がどちらも 90%を超える高い値となった。

○検証の視点「（２）心情に働きかける教材であったか」のまとめ

・３時間の授業で活用した教材について、ほとんどの生徒はそれぞれの場面や内容をイメージすることができ、印象に残る教材であったと考えられる。

・各教材については、それぞれ自分のことや身近な人たち（家族や大切な人など）のことについて考える上で有効に機能し、各教材の感想からも学習内容に自分の生活や経験、家族などを関連付けて考えている記述が多くみられた。本研究における教材は、自分のことや身近な人たち（家族や大切な人など）のことを考える上で有効に機能したと考えられる。

（３）加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つができたか。

ア　加齢に伴う健康課題を自分事として考えることができたか。

図 20 は、事前アンケートの「『加齢』にともなう健康課題を自分事として考えたことがありますか。」という質問（２件法）に「考えたことがある」、「考えたことがない」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の割合と、事後アンケートの「『加齢』に伴う健康課題を自分事として考えることができましたか。」という質問（２件法）に「考えることができた」、「考えることができなかった」の選択肢の中から一つ選んで回答してもらった結果の割合を比較したグラフである。

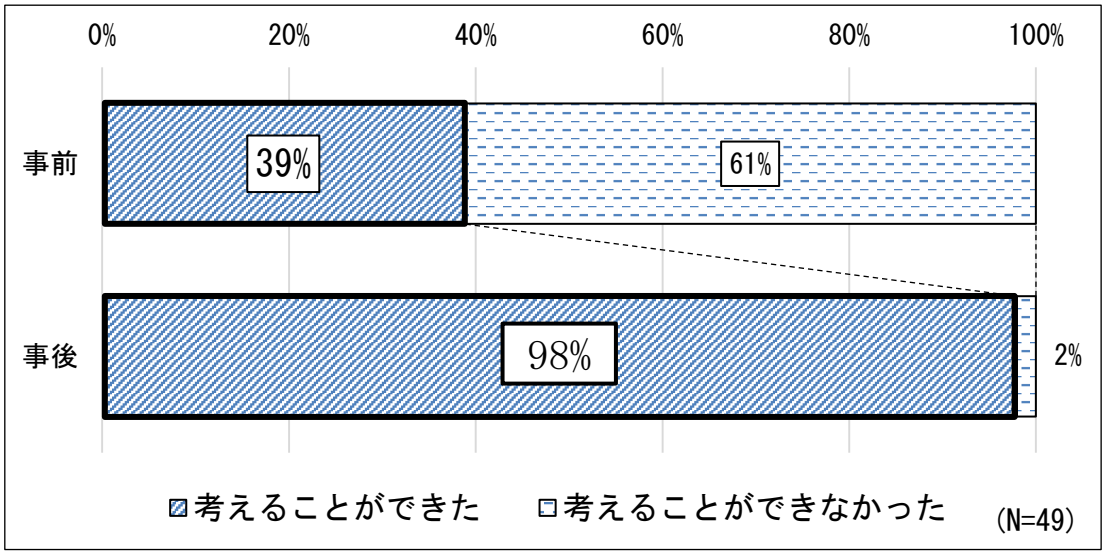


図 20　「『加齢』にともなう健康課題を自分事として考えることができたか。」に対する回答割合の事前・事後の比較

図 20 を見ると、「考えることができた」の割合は、事前の 39%から事後では 98%と 59 ポイント上昇し、「加齢に伴う健康課題」を自分事として考えることができたと回答している。

また図 21 は、毎時間授業後に実施したアンケートの「『加齢』に伴う健康課題を自分事して考えることができましたか。」という質問（２件法）に対する回答割合である。

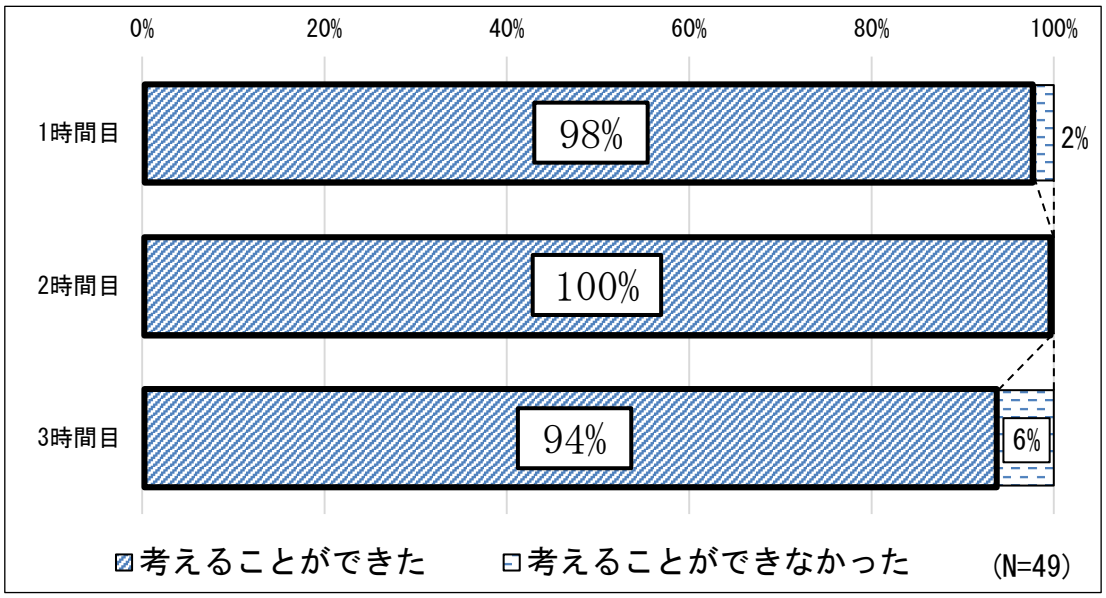


図 21　「『加齢』にともなう健康課題を自分事として考えることができましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

図 21 を見ると、3 時間ともに 94%以上の生徒が「自分事として考えることができた」と回答している。

図 22 は、事前・事後アンケートの「加齢に伴う健康課題は、自分の実生活にも関係がある内容なので学ぶ必要があると思いますか。」という質問（4 件法）に対する回答割合である。

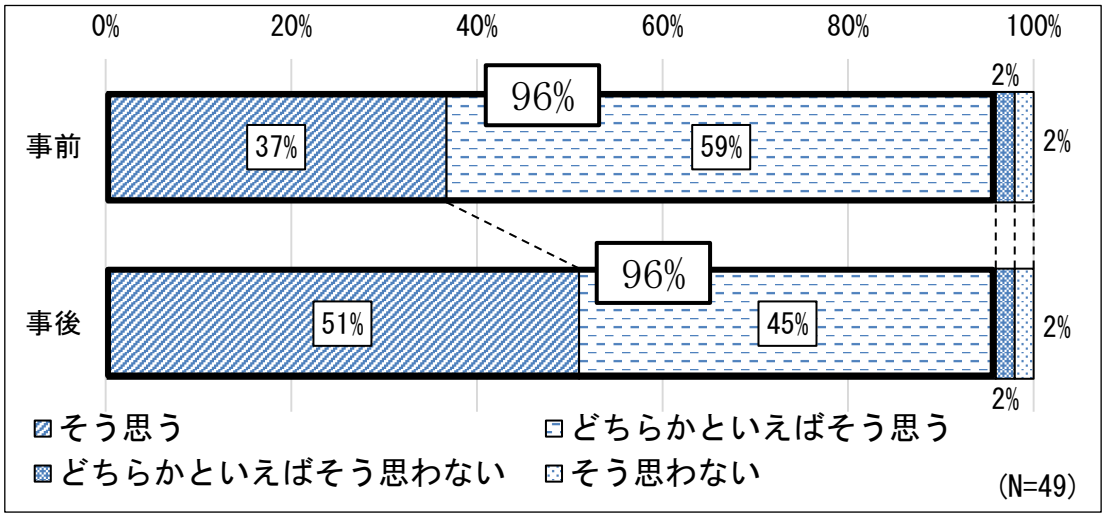


図 22　「加齢に伴う健康課題は、自分の実生活にも関係がある内容なので学ぶ必要があると思いますか。」に対する回答割合の事前・事後の比較

図 22 を見ると、事前・事後ともに「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒が 96%を占めており、また、事後アンケートでは「そう思う」と回答した生徒が 14 ポイント上昇する結果となった。

図 23 は、事前・事後アンケートの「自分の心がけや努力によって、加齢に伴う心身の老化を遅らせることができると思いますか。」という質問（4 件法）に対する回答割合である。

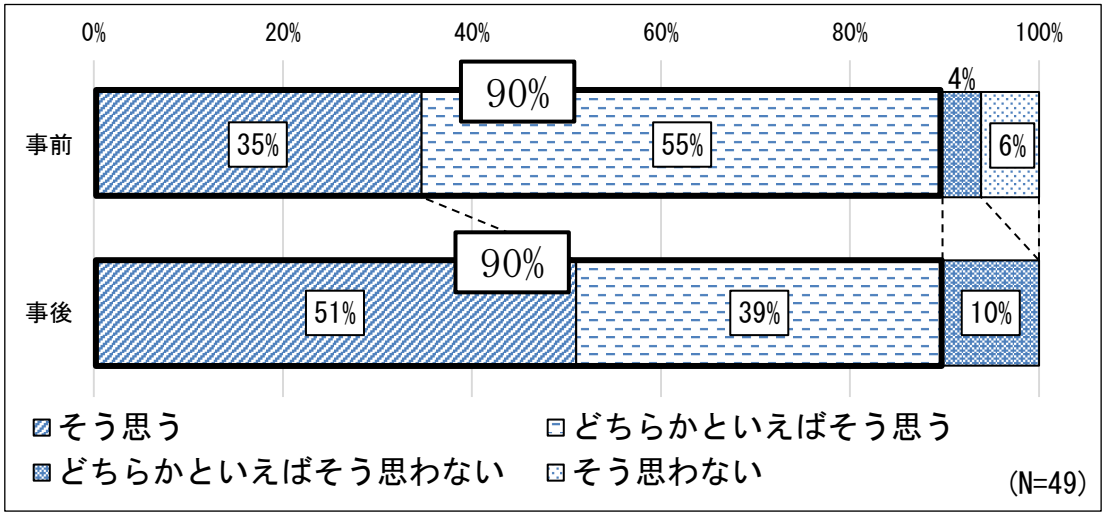


図 23　「自分の心がけや努力によって、加齢に伴う心身の老化を遅らせることができると思いますか。」に対する回答割合の事前・事後の比較

図 23 を見ると、事前・事後ともに「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答をした生徒が 90%を占めており、また事後アンケートでは「そう思う」と回答した生徒が 16 ポイント上昇する結果となった。

また図 24 は、毎時間授業後に実施したアンケートの「今回行った授業の内容について、日常生活にいかそうと思いましたか。」という質問（４件法）に対する回答割合である。

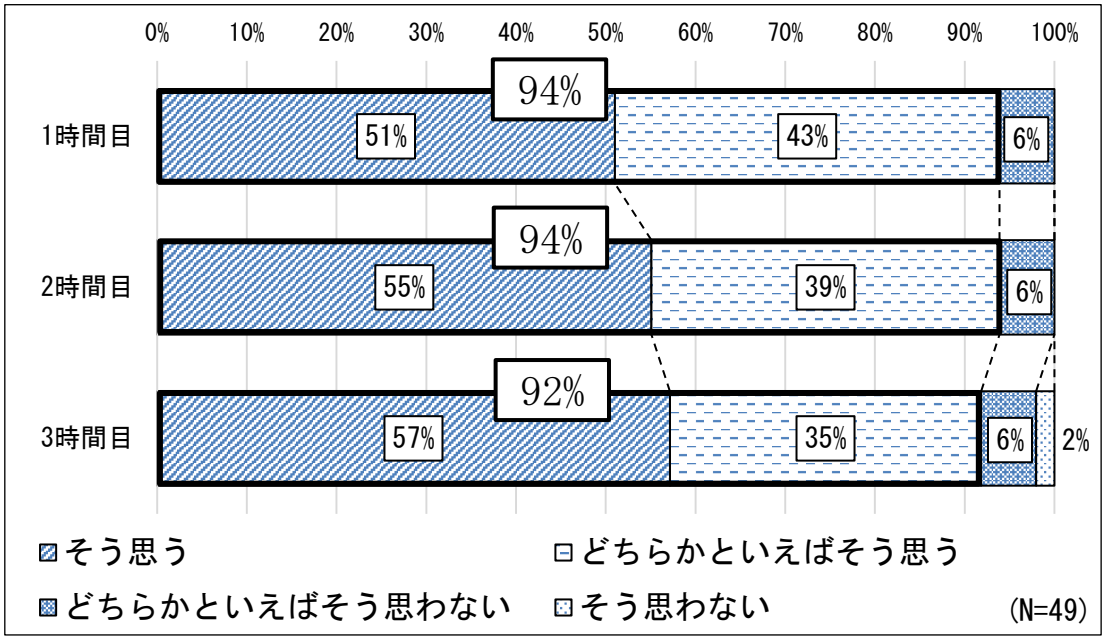


図 24　「今回行った授業の内容について、日常生活にいかそうと思いましたか。」に対する回答割合の３時間の比較

図 24 を見ると、３時間とも肯定的な回答をした生徒が 90%を超える高い値となった。

また、上記の質問に対して、「そう思う群」に回答した生徒のうち、「いかそうと思う内容を具体的に書いてください。」という自由記述の回答を表 15 に示し、回答を分類したものを表 16 に示した。

表 15　図 23 の質問で、「そう思う群」に回答した生徒に対する「いかそうと思う内容を具体的に書いてください。」の自由記述の内容（抜粋）

「自分の生活と関連付けている」記述
いつまでも若々しく自分がいれるように、生活習慣を正し適度な運動、食事を取って過ごしていく。（１時間目）
話を聞いて改めて高齢者になったら体が言う事聞かなくなる、できないことが増えると感じたので自分ができることをやろうと思った。生活習慣をまた見直そうと思いました。（１時間目）
今回の授業を受けて、10 分程度でいいから毎日運動しようと思いました。（２時間目）
老化は年齢とともに体が衰えることなので、どう頑張っても防ぐことは出来ない。出来なくても遅らせることや健康でいることは出来る。だから規則正しい生活、バランスの良い食事、適度な運動、頭を使ったパズル等のゲームをする等を 4 つ全部いきなりやるってなると難しいから、自分が出来そうなものから生活に取り入れていきたいと思った。（３時間目）
先生が何回もいっていたように健康は大切なことだと思うので、私は少し運動を心がけようとおもいました。（３時間目）

「家族や身近な人と関連付けている」記述
私のおばあちゃんも現にどんどん老化による体の変化が出てきています。私はただ悲しくて何もしてあげられない自分の無力さが嫌になっていたところだったので、今日の授業を通して、改めてもっとちゃんとおばあちゃんと向き合おうと思えました。（１時間目）
自分なら祖父などが認知症になった時どうすることが出来るのか。普段通り接するのは無理だからきつく言わずもう少しの人生をその人なりに楽しませることができるようにしたいと思った。（１時間目）
自分もおじいちゃんが運転をするので気をつけてもらえるように伝えたいなと思いました。（２時間目）
周りのおじいさんおばあさんが運転してたりするので教えてあげたいと思いました。（２時間目）
これから祖父母の介護が必要になった時に今回の本人の気持ちを汲み取る事が大事、って事を活かしたいと思います。（３時間目）
家族や知り合いがこのようなことになったら、解決できるように、その人のために何ができるかを考えようと思った。（３時間目）

表 16　図 23 の質問で、「そう思う群」に回答した生徒に対する「いかそうと思う内容を具体的に書いてください。」の自由記述に対する具体的な回答の割合

自由記述の内容	１時間目 (N=46)	２時間目 (N=46)	３時間目 (N=45)
自分の生活と関連付けている記述	72%	74%	67%
身近な人や家族と関連付けている記述	39%	39%	51%
その他	４%	７%	16%

表 16 を見ると、３時間ともに自分の生活に関連付けた内容に関する記述の割合が多くみられた。生徒の記述からも、表 15 のような自分の生活や経験、身近な人や家族と関連付けて考えている記述がみられ、その他の記述にも社会的な問題や対策について、自分の考えや意見を記述していたり、様々な社会的な問題や対策と自分の身近な人や家族と関連付けて考えていたりする記述もみられた。

イ　加齢に伴う健康課題について、認識を持つことができたか。

生徒が加齢に伴う健康課題について、認識を持つことができたかを検証するために、「自分や身近な人たち（家族や大切な人など）が長く健康に生きていくために、具体的にどんなことに気をつけていけばよいですか。」という質問を、事前アンケートと３時間目の学習課題（ワークシートに記入）で設定し、記述内容の変容を分析した。

事前アンケートの実施日が分散登校期間と重なってしまったため、事前アンケートのデータについては、アンケート機能を活用し、各自の端末から送信してもらったデータを活用することとした。

なお、事前アンケートの回答については、記入時間の確保等ができていないこともあり、結果として事前アンケート時の記入文字数に関しては、極端に少なかったことなどを考慮して分析の結果を考える必要があることを申し述べておく。

はじめに、生徒が書いた事前アンケートの記述内容と３時間目のワークシートの記述内容には、どのようなキーワードが使われているのか、概観することとした。図 25 は、テキストマイニング※により、事前と３時間目の記述内容の頻出単語を可視化した図である。

データの対象である 49 名分の記述をＡＩテキストマイニングにかけたところ、図 25 のような結果となった。(一人の生徒が複数のキーワードを記入している場合も、それぞれカウントしている。また、生徒が記述したキーワードの出現回数が多いほど、文字が大きく表される。)

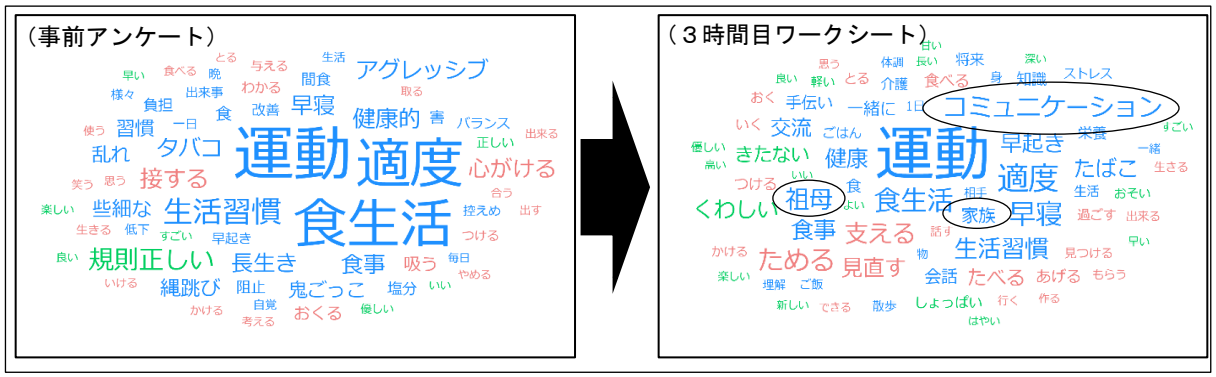


図 25　テキストマイニングによる事前・３時間目記述の頻出単語の比較

※ユーザーローカル テキストマイニングツール (https://textmining.userlocal.jp/) による分析。

図 25 を見ると、事前アンケートでは、「運動」や「食生活」といった「生活習慣」に関する内容についてのキーワードが多くみられた。３時間目のワークシートをみてみると、事前アンケートで多くみられた「生活習慣」に関するキーワード以外に、「コミュニケーション」や「家族」、「祖母」といったキーワードが新たに発現した。また、出現している語句数も事前の 62 語から３時間目では 72 語に増加しており、これは、授業で活用した教材の内容が印象に残り、記述内容に影響したのではないかと考えられる。

次に、対象である 49 名の事前アンケートと３時間目のワークシートの記述内容にどのような変化があったのか分析した。

分析にあたっては授業で扱った学習内容（『現行解説保健体育編』「(ウ) 加齢と健康」の内容）と生徒の記述内容を踏まえ、記述内容を７つのカテゴリーに分類し（表 17)、その割合を事前と３時間目で比較した（図 26)。その際、生徒１名の記述において、複数のカテゴリーがあればそのカテゴリー毎にカウントした。

表 17　生徒の記述内容の分類

	各項目	『現行解説保健体育編』の記載事項
1	心身の変化	「加齢に伴う心身の変化について，形態面及び機能面から理解できるようにする」
2	生活習慣	「中高年期を健やかに過ごすためには，若い時から，適正な体重や血圧などに関心をもち，適切な健康習慣を保つこと」
3	自己管理	「定期的に健康診断を受けることなど自己管理をすること」
4	生きがい	「生きがいをもつこと」
5	人間関係	「家族や親しい友人との良好な関係を保つこと，地域との交流をもつことなどが重要であること」
6	総合的な対策	「中高年の健康状態，生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていること」 「高齢社会の到来に対応して，保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること」
7	その他	上記の記載事項以外

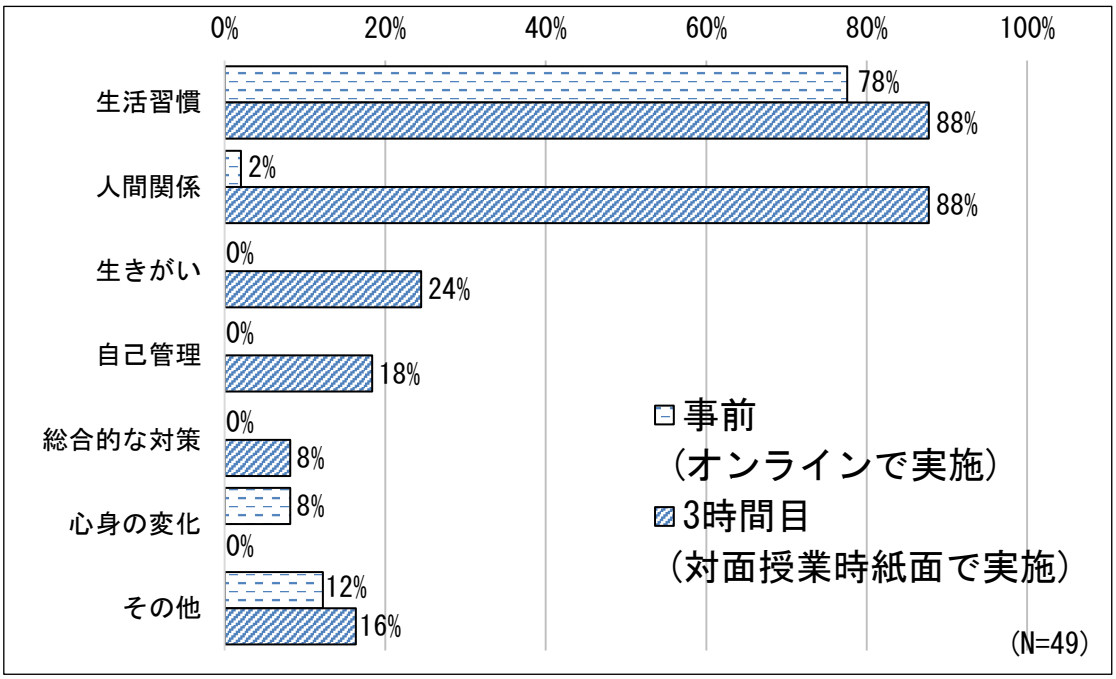


図 26　事前と３時間目で比較した各カテゴリーの記述割合

図 26 を見ると、事前に関しては、「生活習慣(栄養、運動、休養など)」に関する記述が多く、他のカテゴリーの記述は少なかった。３時間目のワークシートでは、「生活習慣」に関する記述以外に「人間関係」や「生きがい」、「自己管理」に関する記述が増え、特に大きく増えた「人間関係」の記述については、家族と関連付けた記述が多くみられた。また、「その他」の記述では、「病気や介護について詳しく知っておく」や「健康になるために色々な知識を身に付ける」といった知識を身に付けることの重要性についての記述がみられた。

次に、事前アンケートと３時間目のワークシートを比較して、特に大きな変容がみられた生徒Ａ、Ｂ、Ｃの記述について、筆者が下線・太字で加筆し、表 18 に示した（一部抜粋)。

表 18　特に大きな変容がみられた生徒の記述内容

○生徒Ａ ＜事前＞ 生活習慣に気をつけてる。
＜３時間目ワークシート＞ 生活習慣をととのえる。朝はやくおき、夜おそくにねない。朝、昼、夜しっかりとご飯をたべる。**自分のしたいことをたくさんする**。**生きがいをもつようにする**。 家族が健康で長生きしてもらうために、家族にあまりめいわくをかけないようにする。**家族との交流を大切にする**。**ごはんたべる時はみんなそろってたべたり、休日は一緒におでかけしたりする。**
○生徒Ｂ ＜事前＞ 食事、睡眠、運動
＜３時間目ワークシート＞ 生活習慣をくずさない。1 日少しでもいいから運動する。自分分析をする。**自分の体調について知っておく**。**病気とかについてくわしく知っておく**。 周りの人と助けあいをする。優しくしたり、困ってる人がいたら声をかける。**相手の気持ちを理解するようにする**。**軽い運動の時には家族と一緒にやる**。

○生徒Ｃ ＜事前＞ 食事や運動
＜３時間目ワークシート＞ 適度な運動、バランスの良い食事、**健康で生活するためのある程度の知識**。 **たくさんの人とコミュニケーションをとる**。**祖父や祖母を一人暮らしさせない**。

生徒Ａは、生活習慣について、事前では具体的な記述はみられなかったが、３時間のワークシートでは、生活習慣の内容がより具体的になり、その他にも「生きがいを持つこと」や「家族との良好な関係を保つこと」といった記述がみられた。結果として、新たに「生きがい」、「人間関係」の二つのカテゴリーに関する記述が増加した。

生徒Ｂは、事前の「食事、睡眠、運動」という記述から、３時間のワークシートでは、「自分の体調について知っておく」といった「自己管理」に関することや「相手の気持ちを理解する」など「人間関係」に関する記述がみられた。また正しい知識を身に付けることの重要性についての記述もみられ、結果として、新たに「自己管理」、「人間関係」、「その他（正しい知識を身に付ける）」の三つのカテゴリーに関する記述が増加した。

生徒Ｃは、事前の「食事や運動」という記述から、３時間のワークシートでは、「たくさんの人とコミュニケーションをとる」、「祖父や祖母を一人暮らしさせない」といった「人間関係」に関する記述や、「健康で生活するためのある程度の知識」といった正しい知識を身に付けることの重要性についての記述もみられ、結果として、新たに「人間関係」、「その他（正しい知識を身に付ける）」の二つのカテゴリーに関する記述が増加した。

表 19 は、記述内容のカテゴリー数を事前と３時間目で比較し、増加したカテゴリーの数毎の割合（人数）と合計の割合（人数）を表したものである。

表 19　事前から３時間目に増加したカテゴリーの数毎の割合（人数）と合計の割合（人数）

増加した カテゴリーの数	割合（人数）	合計
＋１	39%（19 名）	92%（45 名）
＋２	43%（21 名）	
＋３	10%（５名）	

（N＝49）

※増加したカテゴリーの数の例
・「＋１」:（０→１、１→２など）、「＋２」:（０→２、１→３など）、「＋３」:（０→３、１→４など）

表 19 をみてみると、事前と３時間目のワークシートを記述内容のカテゴリーの数で比較した結果、92%の生徒がカテゴリー数を増やす結果となった。

これらのことから、生徒の認識に広がりがみられるなど、加齢に伴う健康課題について、92%の生徒において、加齢に伴う健康課題についての認識に変容がみられたと考えられる。変化がみられなかった４名の生徒をみてみると、２名の生徒は事前アンケートで「生活習慣」の１項目のみ記述があったが、３時間目のワークシートには「生活習慣」の項目がなくなり、「人間関係」の１項目の記述に変化していた。また残る２名の生徒は、事前と３時間目どちらも「生活習慣」の記述をしており、内容に関して変化はみられなかった。

○検証の視点「（３）加齢に伴う健康課題について、『自分事』としての認識を持つができたか。」のまとめ

ア「加齢に伴う健康課題を自分事として考えることができたか」について

・毎時間の記述からも、自分の生活や経験、家族や身近な人と関連付けて考えている記述が多くみられた。また社会的な問題や対策について、自分の考えや意見を記述していたり、様々な社会的な問題や対策と自分の家族や身近な人と関連付けて考えている記述がみられたことから、ほとんどの生徒が、加齢に伴う健康課題を自分事として考えることができたのではないかと考えられる。

イ「加齢に伴う健康課題について、認識を持つことができたか」について

・事前アンケートの際、記述時間の確保ができなかったという条件の違いはあるものの、記述内容に具体的な内容が記載されるようになったり、考える視点が増えた（生活習慣以外の視点を獲得した）りしたことから、生徒は検証授業を通してこれまで以上に加齢に伴う健康課題について認識を持つことができるようになったと考えられる。

・また、自分の生活や家族、自分の将来と関連付けて考えている記述が多くみられ、自他の健康課題について考えることができる有効な活動になったのではないかと考えられる。

第４章　研究のまとめ

本研究は、加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つことができる「心情に働きかける教材」づくりを目的として進めてきた。その結果、加齢に伴う健康課題について、「自分事」としての認識を持つ上で「心情に働きかける教材」が有効に機能することが示唆された。

そして、仮説検証の結果等から、本研究の成果と課題、今後の展望を次のように整理した。

１　研究の成果と課題

（１）研究の成果

ア　「心情に働きかける教材」の有効性

本研究では、「身近に感じる題材(家族や同年代の高校生にまつわる事柄など)」を素材に教材を作成し、授業を行った。本教材は、生徒にとって興味・関心を持つことができ、併せて具体的なイメージを持つことで、現実的で身近な健康課題として考えることに有効であったと考えられる。

また、身近な人や家族といった立場を設定し、登場人物の心情を問い、その後それぞれの立場と自分を置き換えて、自分の生活と関連付けた発問をすることによって、生徒は自己の健康課題だけでなく、身近な人や家族の健康課題ついても考えることができ、自他の健康課題について考えることができる有効な教材であることが分かった。

イ　「自分事」としての認識の持たせ方

本研究では、加齢に伴う健康課題の本質や意義を理解し、「自分事」としての認識を持たせるために課題を設定し、授業を行った。その結果、生徒は生活習慣の他、人間関係や生きがいなど、個人や家族の取組について「自分事」としての認識を持つことができた。

（２）研究の課題

加齢に伴う健康課題について、個人や家族の取組について「自分事」としての認識を持たせることができた一方で、社会的対策などについては身近に受け止めさせることがあまりできず、他の内容に比べ十分に認識を持たせることができなかった。また、３時間の授業での検証となり、単元を通した検討は十分にできなかった。

本研究では、学習内容の理解を促すために、学習指導の工夫として「教材」に着目し研究を進めてきた。より教材の学習効果を高めていくためには、生徒の実態を見極め、単元計画を作成し、単元の中で教材をどう活用していくかを検討する必要があると感じた。

生徒の生活と社会的な対策などを結び付け、「自分事」としての認識を持たせることができるように、単元計画や教材の内容、発問など更なる工夫が必要であると考える。

（３）教材づくりの提案

本研究の成果と課題を踏まえ、加齢に伴う健康課題について、生徒が「自分事」としての認識を持つことができる教材づくりのポイントについて、次のとおり提案する。

＜素材選択のポイント＞

（１）生徒が興味・関心を持てるように、生徒にとって身近に感じる題材（家族や同年代の高校生にまつわる事柄など）を取り入れる。

（２）具体的なイメージを持つことができるように、「手記」や「映像」などを活用する。

＜発問のポイント＞

（１）登場人物の心情を問う発問をする。

（２）登場人物と自分(生徒)を置き換え、「自分だったらどうするか」を考える発問をする。

（３）生徒の生活と関連付けた発問をする。

※（１)、（２)、（３）の順番に発問し活動する。

２　今後の展望

高等学校では、2022 年度（令和４年度）から『新学習指導要領』が年次進行でスタートする。『新学習指導要領』を鑑みて、今後の展望を次の通り整理した。

（１）カリキュラム・マネジメントの推進を見据えた授業づくりについて

本研究では、教材を工夫し、加齢に伴う健康課題を自分事として考えることを目的とし研究を行った。検証授業では、教科の枠を越えて多くの先生方に参観していただき、そこで情報交換の時間を持てたことで、自身の視野を広げることができた貴重な機会になった。また、その中で保健のみならず多く先生方も、様々な課題を「自分事」として考えてほしいという思いを持っていることが分かり、筆者の課題（p.７ ３（１)「本校の実態」参照）は、学校全体の共通の課題であることが分かった。その中で、「生徒に自分事として考えさせる」は、よりよい授業をつくっていく上で、重要なキーワードになると改めて認識することができた。

今後は、生徒や学校の実態を見極め、各学校の教育の目的や目標の実現に向けて教科等横断的な視点で指導内容や指導方法等を考え、生徒の成長のために学校全体で授業改善に取り組んでいく事が重要であると考える。

（２）「体験活動」の充実について

『新解説保健体育編』では、「内容の取扱いに当たっての配慮事項」に新たに「体験活動」の項目が追加され、実感しながら理解できるように地域・家庭と連携・協働しつつ、体験活動の機会を確保していくことが求められている（文部科学省　2019　p.227)。

本研究の当初の予定では、高齢者の行動や心情に対する理解を深め、具体的なイメージを持たせるために、高齢者疑似体験を取り入れるなど具体的な体験を中心とした計画をしていた。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴う分散登校中の授業実施上の留意事項等により、体験的な活動を実施することができなかった。

今後は、知識の指導に偏ることなく、資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができるように、具体的なイメージを持つことができる体験的な学習を取り入れるなど実感しながら理解できるよう学習過程を工夫していきたいと考えている。

（３）『新学習指導要領』の全面実施に向けた授業づくりについて

高等学校では、2022 年度（令和４年度）から『新学習指導要領』が年次進行でスタートする。学習指導要領の改訂に伴い、教科の目標及び内容については育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理され、どのような資質・能力を育成していくのかが明確化された。これからは、単元を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力をどのように育成していくかが教員には求められている。

この視点に立ってみると、本研究において加齢に伴う健康課題を「自分事」として考えられるようにするために活用した「心情に働きかける教材」は、科目保健に係る「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の二つの資質・能力の育成に寄与できるのではないかと考える。

一つ目の「思考力、判断力、表現力等」については、自他や社会の課題を発見し、課題解決に向けて自ら考え、適切な方法を選択し、判断する力を身に付けることを目指しており、また二つ目の「学びに向かう力、人間性等」については、自他の健康や環境づくりに関心をもち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育てることを目指している（文部科学省　2019　p. 198）。

本研究の成果にもあるように、「身近に感じる題材（家族や同年代の高校生にまつわる事柄など）」を取り入れ、その教材に「身近な人や家族」といった視点を取り入れたり、それぞれの立場と自分を置き換えて、自分の生活と関連付けて考えられるように工夫したりすることで、生徒は興味・関心を持ち、課題解決に向けて自ら考え判断し、自他の健康課題について考えることができた。このような生徒の変容から、特に二つの資質・能力の育成に寄与できるのではないかと考える。

また、三つの資質・能力は相互に関係し合いながら育成されるものであり、二つの資質・能力を育成する学習過程を通して、学習内容の深い理解と知識や技能の定着に繋がり、「知識及び技能」の育成にも寄与できるとのではないかと考える。

この考察は、所属校である釜利谷高校の生徒の実態を踏まえた考察であり、各校の生徒の実態によって育成できる資質・能力は様々であると推察される。本研究を今後の授業改善の参考になればと願っている。生徒が健康課題を「自分事」として考えられるような授業実践が増えていく事を期待している。

３　おわりに

本研究の対象生徒である２年生は昨年度、筆者が准担任を受け持った学年であり、多くの生徒と関わってきた。多くの生徒は、もう一度勉強をやり直したい、基礎・基本から学力を身に付けたいと強い思いを持って学校生活を送っている。「学び直したい」という気持ちは、生徒一人ひとりに内在しているため、学習の方法や進め方を理解すると学力が伸びていく生徒も多く、「目標や課題解決に向かって学習していける学習環境をつくっていきたい」という自身の問題解決への思いが研究の出発点であった。

今年度も、昨年度と同様にコロナ禍の大変な状況の中で、長期研究員として生徒たちのために何ができるのか、どんな授業をつくっていけばよいのか、日々悩んでいた。そんな大変な状況の中でも、一生懸命に取り組んでくれた生徒たちに本当に感謝している。また、検証授業を実施させていただいたクラスの生徒たちから、たくさんのメッセージをいただいた。このメッセージはその一部である（原文を掲載）。

> 授業での外赤先生の体験したエピソードから考えていったものは、先生のエピソードもありとても現実的に、自分事のように思え、考えることができて、これからの生活や今後（老後）について、今まではどうでもよかったと思っていたことが、とても大切で、重要なことだと気づくことができました。この授業を受けれたことを嬉しく思います。
> たったの３時間でしたが、貴重な時間に私はなったと感じています。自分で考え、他人の考えも聞いて成長できるような授業を本当にありがとうございました。

> 先生の授業は分かりやすく、自分のことのように考えることができました。身の回りで起きてもおかしくないことなんだと思い、必死に解決策を探すことができました。また、自分の意見を考え書くことで、自分に自信を持って取り組んでいく事ができました。
> これで先生の授業を受けられないと思うと寂しい気持ちもありますが、これからも頑張っていこうと思います。

> 少しの間でしたがとてもいい経験になりました。周りの友達の意見を聞いて、自分なりに「家族のために何ができるのか」を考えることが大切なんだということに気づくことができました。自分のことばかり考えていたので、周りの人たちの事を考えれるきっかけにもなりました。こういう面でも保健の授業はとても大切だなと思いました。本当にありがとうございました。

一人ひとりのメッセージから、生徒自身の成長を感じることができ、保健体育科教諭として、より授業を大切にし、今まで以上に生徒たちが学びに向かえる環境をつくっていきたいと強く感じた。今後は、本研究で活用した教材等を発展させながら、よりよい授業をつくっていきたいと思う。

最後になりましたが、本研究を行うにあたり、御多用の中、検証授業の準備から実施まで多くのご協力をいただいた釜利谷高等学校の岡本校長先生をはじめ、様々な場面で協力していただいた教職員の皆様、また専門的な見地から様々な御指導、御助言をいただいた、神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課の福澤指導主事に感謝致します。
そして、本研究の趣旨を御理解いただき、御協力をいただいた保護者の皆様、検証授業に前向きに取り組んでくれた釜利谷高等学校の生徒たちに感謝致します。ありがとうございました。

［参考・引用文献］

神奈川県教育委員会　2011　「これからの県立高校のあり方【最終報告】」　p.13
https://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/686159.pdf（2022 年３月 10 日取得）

国立教育政策研究所　2015　「平成 27 年度高等学校学習指導要領実施状況調査　教師質問紙調査（保健）」

新潮社　1995　『新潮国語辞典第二版』　p.1211

中央教育審議会　2016　「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

文部科学省　2009　『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』　東山書房　p.111

文部科学省　2018　「高等学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置並びに移行期間中における学習指導等について（通知）」

文部科学省　2019　『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 保健体育編 体育編』　東山書房

今村　修　2017　「保健の授業をつくる」　日本保健科教育学会（編）『保健科教育法入門』　大修館書店

左川　佳子　新谷　ますみ　2020　「健康課題を自分事として捉えて行動変容を促す生活習慣病予防教育（第 2 報）―子どもの自己評価と保護者の観察項目からみた生活習慣病予防教育のあり方―」（弘前大学　教育学部研究紀要クロスロード　24 巻）p.64-65

白石　龍生　宮井　信行　森岡　郁晴　宮下　和久　武田　眞太郎　1998　「保健授業の生徒による評価の研究」（日本健康教育学会誌　第５巻）

忠隈　一也　2021　「がんを自分事として考え、認識を深める保健の授業」（神奈川県立体育センター長期研修研究報告）　p.48-49

福田　修　2020　「自分事として社会的問題解決を実践する社会科の授業―第４学年『わたしたちのくらしとごみ～未来のために！ごみ減らし大作戦から』の実践から―」（佐賀大学教育実践研究　38 巻）p.208